

# 法 性 寺 跡

2011 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所









# 法 性 寺 跡

2011 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永く、そして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかむかしの、貴重な文化財が今なお多く地下に埋もれています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、昭和 51 年（1976）設立以来、これまでに市内に点在する数多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた京都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様に京都の歴史に対し、関心を深めていただけるよう努めております。

このたび、道路拡幅事業に伴う法性寺跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきまして御意見、御批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際して御協力ならびに御支援たまわりました関係各位に厚く感謝し、御礼申し上げます。

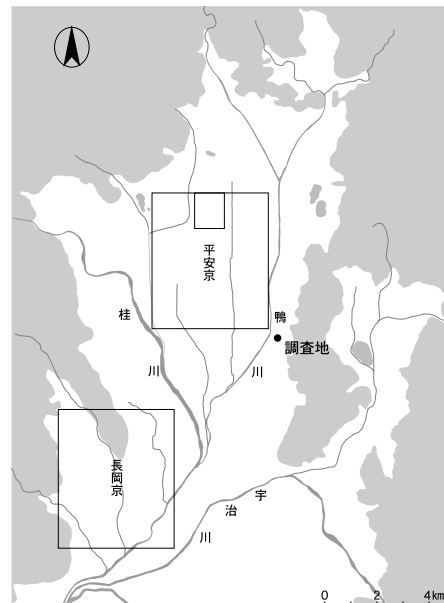
平成 23 年 6 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 法性寺跡
- 2 調査所在地 京都市東山区本町二十丁目他地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2011年1月24日～2011年3月29日
- 5 調査面積 1区：約315㎡ 2区：約11㎡
- 6 調査担当者 布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「京都駅」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。伏見人形関連遺物以外のものは番号のみとし、伏見人形原型には「原」、土型には「型」、製品には「製」、ヘラ描き・刻印のみ掲載のものには「ヘラ」・「刻」をそれぞれ番号の頭に付けた。
- 13 本書作成 布川豊治
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。
- 15 協力者 伏見人形の分類・型抜き・窯などについて、伏見人形窯元丹嘉の7代目である大西時夫氏に御教示を頂いた。ここに謝辞を述べたい。



(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	4
(1) 位置と環境	4
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 遺構の概要	5
(3) 古墳時代の遺構	5
(4) 室町時代の遺構	9
(5) 江戸時代から明治時代の遺構	10
4. 遺 物	13
(1) 出土遺物の概要	13
(2) 古墳時代の土器	13
(3) 飛鳥時代から平安時代の土器	14
(4) 室町時代の土器	15
(5) 江戸時代の遺物	15
(6) 伏見人形関連遺物	16
5. ま と め	21
(1) 検出した遺構について	21
(2) 伏見人形の窯と関連遺物について	22

# 図 版 目 次

図版1	遺物	伏見人形原型実測図1 (1:2)
図版2	遺物	伏見人形原型実測図2 (1:2)、製品実測図 (1:4)
図版3	遺物	伏見人形土型実測図1 (1:2)
図版4	遺物	伏見人形土型実測図2 (1:2)
図版5	遺物	伏見人形土型実測図3 (1:2)
図版6	遺物	伏見人形土型実測図4 (1:2)
図版7	遺物	伏見人形土型実測図5 (1:2)

- 図版 8 遺物 伏見人形土型実測図 6 (1 : 2)
- 図版 9 遺物 伏見人形土型実測図 7 (1 : 2)
- 図版 10 遺物 伏見人形土型実測図 8 (1 : 2)
- 図版 11 遺物 伏見人形土型実測図 9 (1 : 2)
- 図版 12 遺物 伏見人形土型実測図 10 (1 : 2)
- 図版 13 遺物 伏見人形土型実測図 11 (1 : 2)
- 図版 14 遺物 伏見人形土型実測図 12 (1 : 2)
- 図版 15 遺物 伏見人形土型実測図 13 (1 : 2)
- 図版 16 遺物 伏見人形土型実測図 14 (1 : 2)
- 図版 17 遺物 伏見人形土型実測図 15 (1 : 2)
- 図版 18 遺物 伏見人形土型実測図 16 (1 : 2)
- 図版 19 遺物 伏見人形土型実測図 17 (1 : 2)
- 図版 20 遺物 伏見人形土型実測図 18 (1 : 2)
- 図版 21 遺物 伏見人形土型実測図 19 (1 : 2)
- 図版 22 遺物 伏見人形土型実測図 20 (1 : 2)
- 図版 23 遺物 伏見人形土型実測図 21 (1 : 2)
- 図版 24 遺物 伏見人形土型実測図 22 (1 : 2、1 : 3)
- 図版 25 遺物 伏見人形土型実測図 23 (1 : 2)
- 図版 26 遺物 伏見人形土型実測図 24 (1 : 2)
- 図版 27 遺物 伏見人形土型実測図 25 (1 : 2)
- 図版 28 遺物 伏見人形土型実測図 26 (1 : 2)
- 図版 29 遺物 伏見人形土型実測図 27 (1 : 2)
- 図版 30 遺物 伏見人形土型実測図 28 (1 : 2)
- 図版 31 遺物 伏見人形土型実測図 29 (1 : 2)
- 図版 32 遺物 伏見人形土型実測図 30 (1 : 2)
- 図版 33 遺物 伏見人形土型実測図 31 (1 : 2)
- 図版 34 遺物 伏見人形土型実測図 32 (1 : 2)
- 図版 35 遺物 伏見人形土型実測図 33 (1 : 2)
- 図版 36 遺物 伏見人形土型実測図 34 (1 : 2)
- 図版 37 遺物 伏見人形土型実測図 35 (1 : 2)
- 図版 38 遺物 伏見人形土型実測図 36 (1 : 2)
- 図版 39 遺物 伏見人形土型実測図 37 (1 : 2)
- 図版 40 遺物 伏見人形土型実測図 38 (1 : 2)
- 図版 41 遺構 1 1区全景 (南東から)
- 2 溝 41 (東から)

	3	溝 56 (南西から)
図版 42 遺構	1	建物 1 (西から)
	2	土坑 22 (東から)
	3	溝 5 (南西から)
図版 43 遺構	1	窯 61 (北東から)
	2	土坑 62 (東から)
	3	2区全景 (北から)
図版 44 遺物		土器・製品
図版 45 遺物		製品・土型のヘラ描き
図版 46 遺物		泥面子土型

## 挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 5,000)	1
図 2	調査区配置図 (1 : 500)	2
図 3	調査前全景 (北西から)	3
図 4	調査風景 (東から)	3
図 5	1区北壁・東壁断面図 (1 : 100)	6
図 6	1区遺構平面図 (1 : 200)	7
図 7	2区遺構実測図 (1 : 100)	8
図 8	溝 41 断面図 (1 : 50)	8
図 9	溝 56 断面図 (1 : 50)	8
図 10	建物 1 実測図 (1 : 80)	9
図 11	土坑 22 実測図 (1 : 50)	9
図 12	溝 5 断面図 (1 : 50)	10
図 13	窯 61 実測図 (1 : 20)	11
図 14	西拡張区遺構実測図 (1 : 40)	12
図 15	古墳時代から平安時代の土器実測図 (1 : 4)	14
図 16	室町時代から江戸時代の土器実測図 (1 : 4)	15
図 17	銭貨拓影 (1 : 1)	15
図 18	ヘラ描き拓影 (1 : 2)、刻印拓影 (1 : 1)	19
図 19	伏見人形 (丹嘉) の桶窯 (1 : 50)	21
図 20	伏見人形関連者位置図 (1 : 10,000)	22

# 表 目 次

表 1	遺構概要表	.....	5
表 2	遺物概要表	.....	13

# 付 表 目 次

附表 1	伏見人形原型（雄型）分類表	.....	23
附表 2	伏見人形製品・道具類分類表	.....	23
附表 3	伏見人形土型（雌型）分類表	.....	26



# 法性寺跡

## 1. 調査経過

今回の調査は、本町下高松通（十条通）道路拡幅事業に伴う発掘調査である。周辺の既往調査成果から、当地では弥生時代から古墳時代の遺構と、平安時代から室町時代の遺構が良好に遺存していると予想された。そのため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「京都市保護課」という。）は発掘調査が必要と判断し、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託を行い、発掘調査を実施することとなった。

京都市保護課の指導に基づき、調査区はJR奈良線東側を1区、JRと京阪電鉄間を2区として設定した。1区は東西約43.7m、南北が約7.5mの北東隅を欠いた長方形、2区は東西約2m、南北約5.5mの長方形である。遺構面は当初の想定通り2面を設定し、平安時代から室町時代の遺構と、弥生時代から古墳時代の遺構の実態を明らかにすることを目的として実施した。

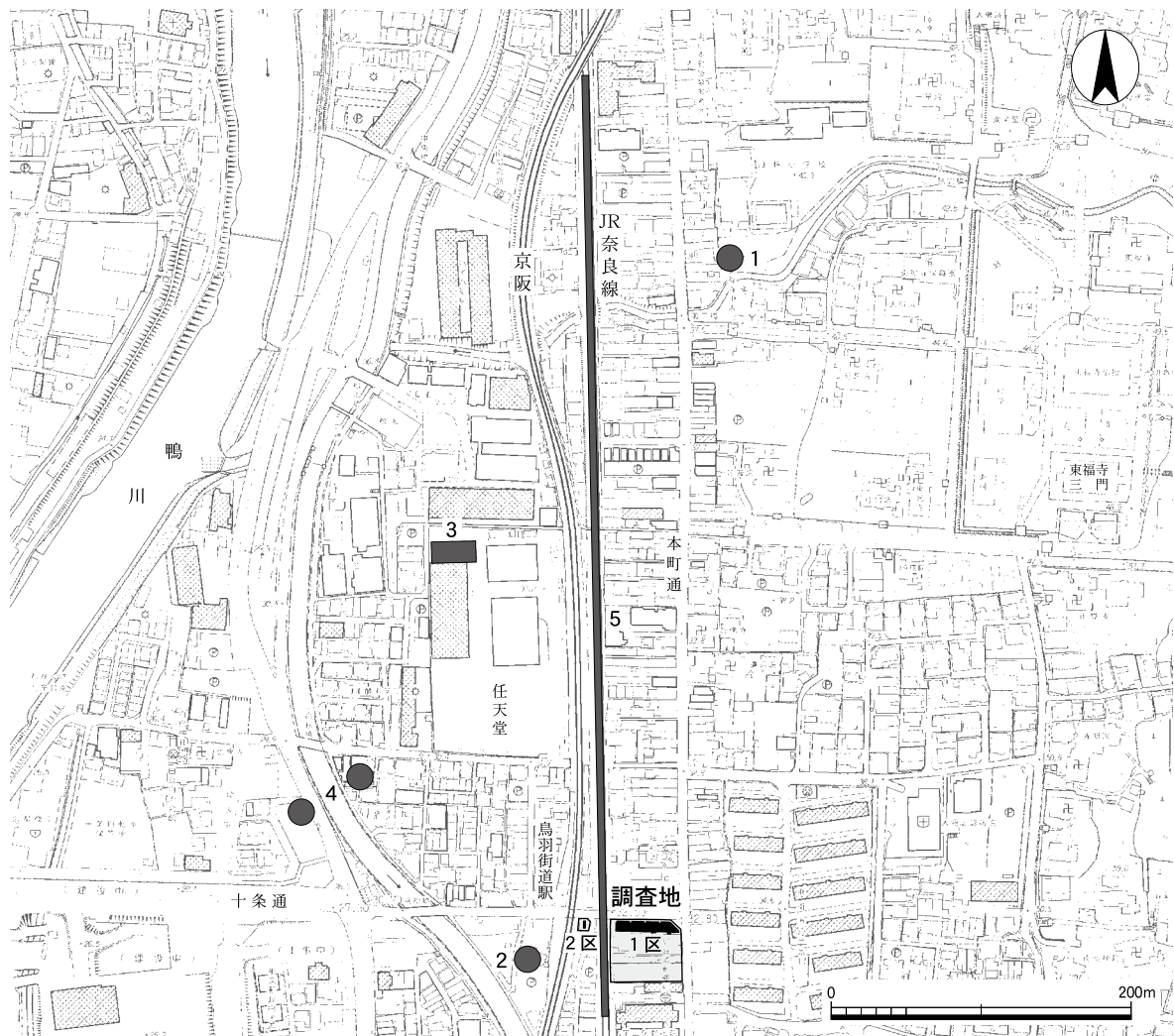


図1 調査位置図（1：5,000）

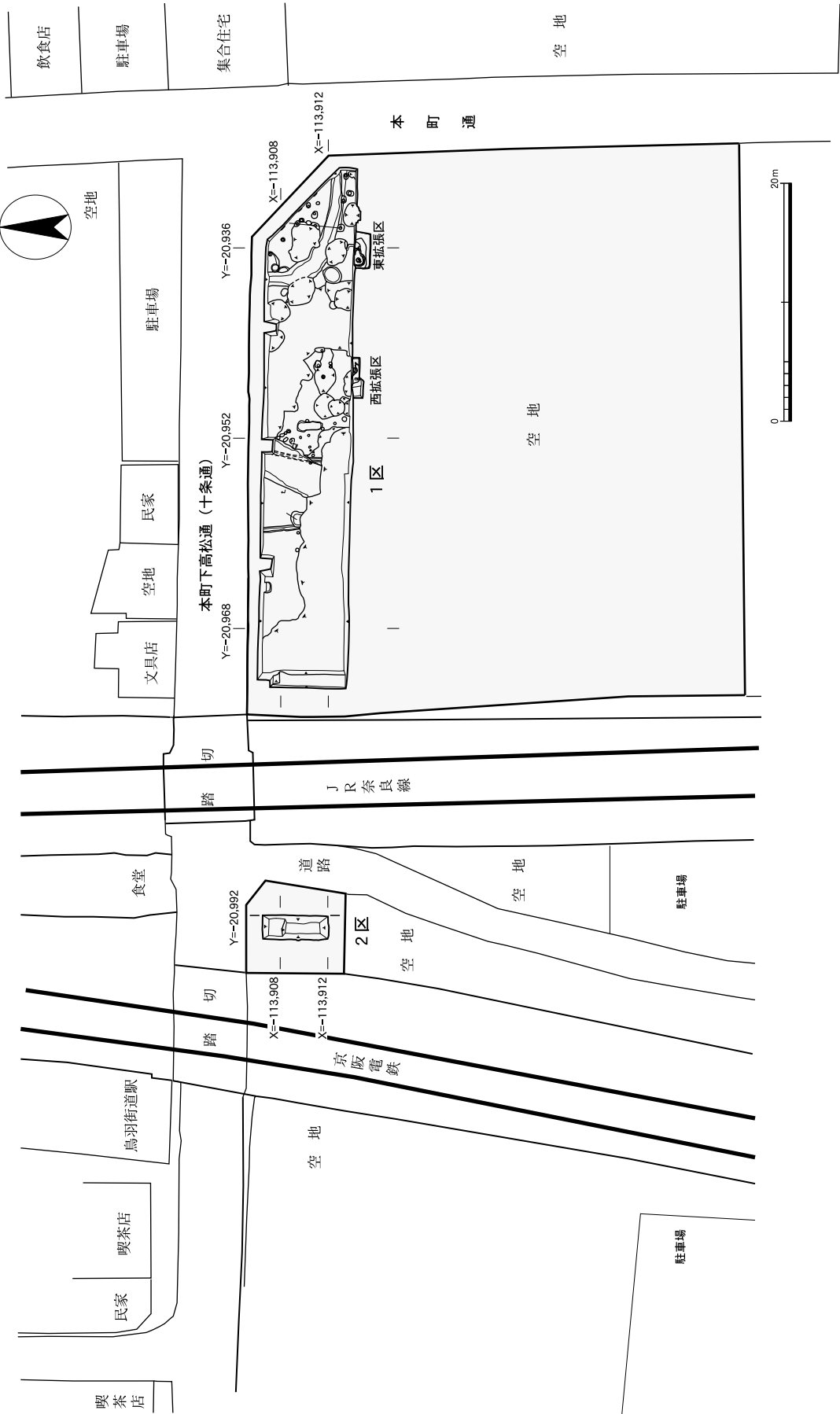


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景（北西から）



図4 調査風景（東から）

1区の調査は、近代盛土を重機で掘り下げ、以後人力によって調査を行った。残土は調査地敷地内に仮置きした。調査区の東部は自然堆積と考える暗褐色泥砂・砂層上面で柱穴などを、中央部では固く締まる褐色～黄褐色砂泥層上面で柱穴や土坑などを検出した。西部北半は包含層である黒褐色・黒色砂泥層が堆積しており、その上面で溝や土坑などを検出した。検出した遺構は室町時代から江戸時代のものである。さらに、この黒色砂泥層を掘り下げ、古墳時代の溝を検出した。最後に部分的な掘り下げや断ち割り調査を行い、古墳時代より古い遺構がないことを確認した。

なお、重機掘削時に、南西部の土坑から、幕末から明治時代のものと考えられる伏見人形や泥面子などの土型が大量に出土した。これらは、京都の地場産業の実態を知る上で貴重な資料であり、京都市保護課と協議の上、発掘調査に伴う出土品(遺物)として取り扱うこととなった。これに伴い、1区南壁で表土直下に認めていた伏見人形の窯跡と見られる焼土の集中部2箇所を拡張し、窯跡と焼土坑を検出した。

2区は深さ2mまで重機で掘り下げたが、現代盛土を確認したのみで遺構面は確認できなかった。それ以下の掘削は京都市保護課と協議のもと、安全面を配慮し実施しなかった。

調査中は逐次、京都市保護課の指導・臨検を受け、遺構掘削、遺物採取、写真撮影、図面の記録などの調査を進め、復旧工事と器材撤収などを行い、全ての作業を終了した。

## 2. 位置と環境

### (1) 位置と環境

調査地は京都盆地南東部の鴨川左岸、東山山麓の洪積層の丘陵地にあり、法性寺跡推定地の南端西部に位置する。法性寺は藤原忠平により延長3年(925)に創建され、平安時代中期から鎌倉時代中期にかけて続いた藤原氏の氏寺である。その後、延応元年(1239)法性寺域に九条道家が東福寺を造営し、法性寺は衰退していく。なお現存する法性寺(浄土宗)は、旧寺名を受け継ぎ、近世頃に再建されたものといわれている。

また、調査地の東は本町通に接するが、この通りは伏見街道ともよばれ、豊臣秀吉の時代に五条から伏見へ至る主要道として敷設されたと考えられている。当地周辺は近世に東福寺や伏見稲荷の門前町として栄え、街道に面して町屋が並んでいたが、近代に入り、鉄道が開通すると人の流れが変わり、衰退していった。

### (2) 周辺の調査

調査地周辺ではこれまで幾つかの発掘調査を実施している。月輪小学校で実施した1980年度の発掘調査(図1-1)では、弥生時代の溝、平安時代後期の土坑、室町時代の井戸などを検出している。京阪電鉄烏羽街道駅南の新十条通建設に伴う1996年度発掘調査(図1-2)では、弥生時代中期の流路、鎌倉時代の東西溝などを検出している。調査地北西約200mの任天堂株式会社敷地北西部で行った2010年度発掘調査(図1-3)では、弥生時代前期の溝、同中期から後期の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居、平安時代の墓、鎌倉時代の南北溝などを検出している。立会調査でも、1987年度には高松町の下水道埋設工事に伴う調査(図1-4)で弥生時代中期の流路を、1999年度のJR奈良線複線化工事に伴う調査(図1-5)で弥生時代の包含層を確認している。

これらの調査成果から当地周辺では、弥生時代の溝や周溝墓、古墳時代の竪穴住居、平安時代の墓、土坑、鎌倉時代の溝などを確認している。

#### 引用文献

『京都の地名』日本地名体系27 平凡社 1979年

「法性寺跡・正覚寺跡」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年

「法性寺跡・烏野辺跡・正覚寺跡」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998年

「法性寺跡・貞観寺跡」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年  
横山卓雄『京都の自然史』(株)京都自然史研究所 2004年

『京都市遺跡地図台帳』【第8版】京都市文化市民局 2007年

『法性寺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2010-11 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序

1区の現地表面は、東端で標高32.6m、西端で32.3mであり、東から西へゆるやかに傾斜する。北壁の基本層序は、東端で地表下約0.3m、西端で約1.0mが現代盛土である。盛土の下は、東部では近世の包含層（厚さ0.2～0.3m）である暗オリーブ褐色砂泥・オリーブ褐色泥砂（図5－北壁1・12層）が堆積し、その直下は基盤層である。中央部西側は攪乱され、盛土直下で基盤層（北壁26層）となる。中央部から西部では、近世の包含層（厚さ0.3～0.4m）である黒褐色～暗褐色砂泥層（北壁2層）、平安時代の遺物を少量含む包含層（厚さ約0.3～0.4m）である黒褐色・黒色砂泥層（北壁9・13層）が堆積し、その下は基盤層である。基盤層上面の標高は、南東隅で約32.2m、北西端近くでは約31.0mであり、現地表と同様に南東から北西へ傾斜する。1区東部の褐色砂泥層（北壁26層）の下に、古土壤層（北壁27層）が見られる。西部断ち割り調査でも、地表下約2mで古土壤層（北壁31・32層）を確認したが、遺物は包含していなかった。

2区（図7）の現地表面は、標高32.1m前後であり、その下の深さ約2mまで現代盛土である。

#### (2) 遺構の概要

1区の東部では、主に基盤層の暗褐色泥砂・砂層（図5－東壁9～11層）上面で、室町時代の柱穴やピットなどを検出した。中央部では、基盤層の褐色～黄褐色砂泥層（北壁26層）上面で、室町時代と考える柱穴やピット、江戸時代の土坑や溝などを検出した。西部では、平安時代の遺物を少量含む包含層である黒褐色・黒色砂泥層（北壁9・13層）上面で、近世の溝や中世の土坑などを検出した。この黒色砂泥層の下では古墳時代の溝を検出した。西部から中央部の南半部では、大きい近代土坑を検出した。また、拡張区では、表土直下で幕末から明治時代の窯跡などを検出した。

2区（図7）では、遺構面は検出できなかった。以下、時期の古い順に述べる。

#### (3) 古墳時代の遺構

溝41（図8、図版41-2） 1区中央部西寄りの北側で検出した東西溝の南半部である。東と西

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
古墳時代	溝41・56	
室町時代	建物1、土坑22、柱穴、ピット、溝6など	
江戸時代～明治時代	溝1・2・5、窯61、土坑62・63など	

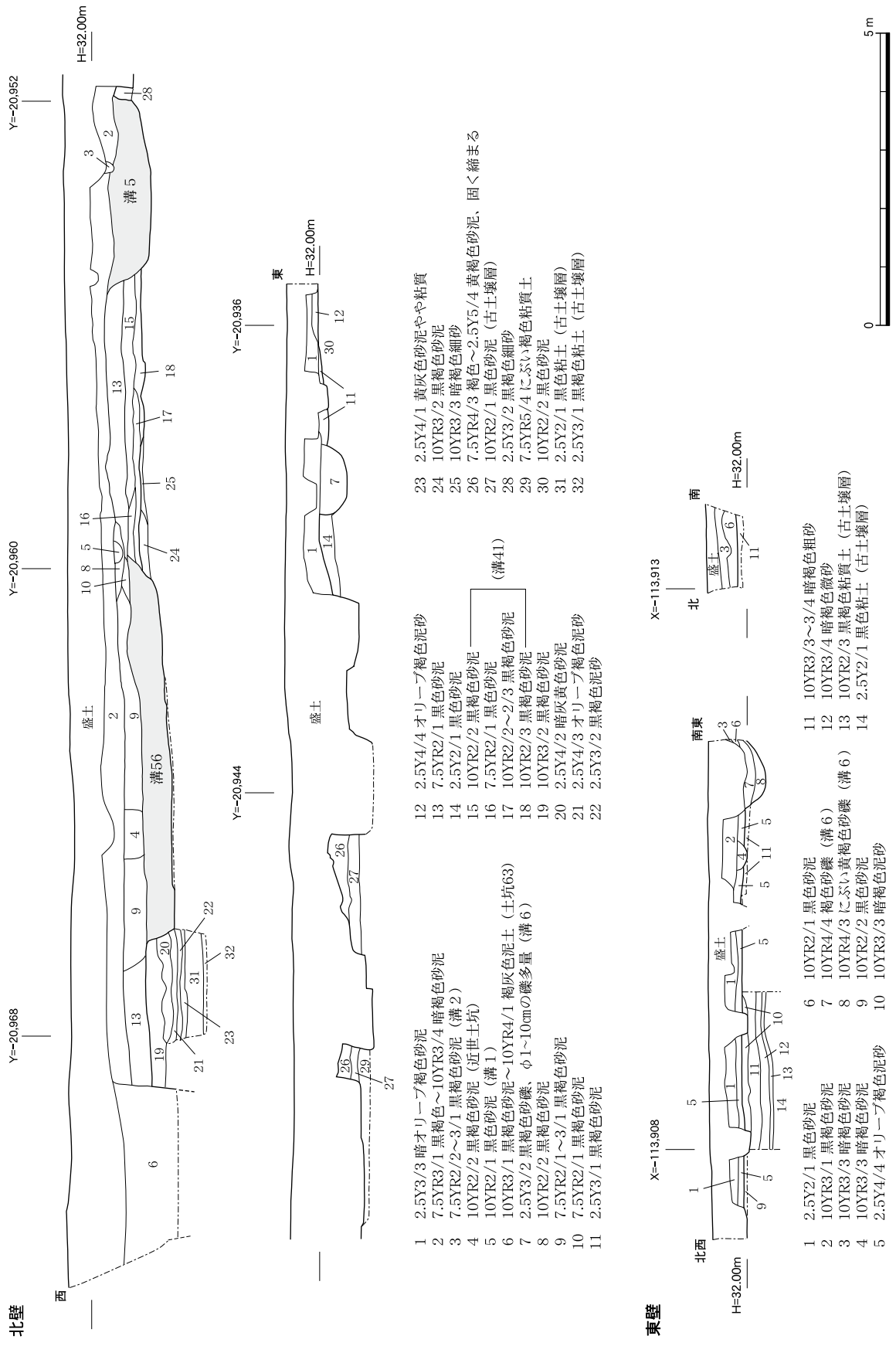


図5 1区北壁・東壁断面図 (1:100)

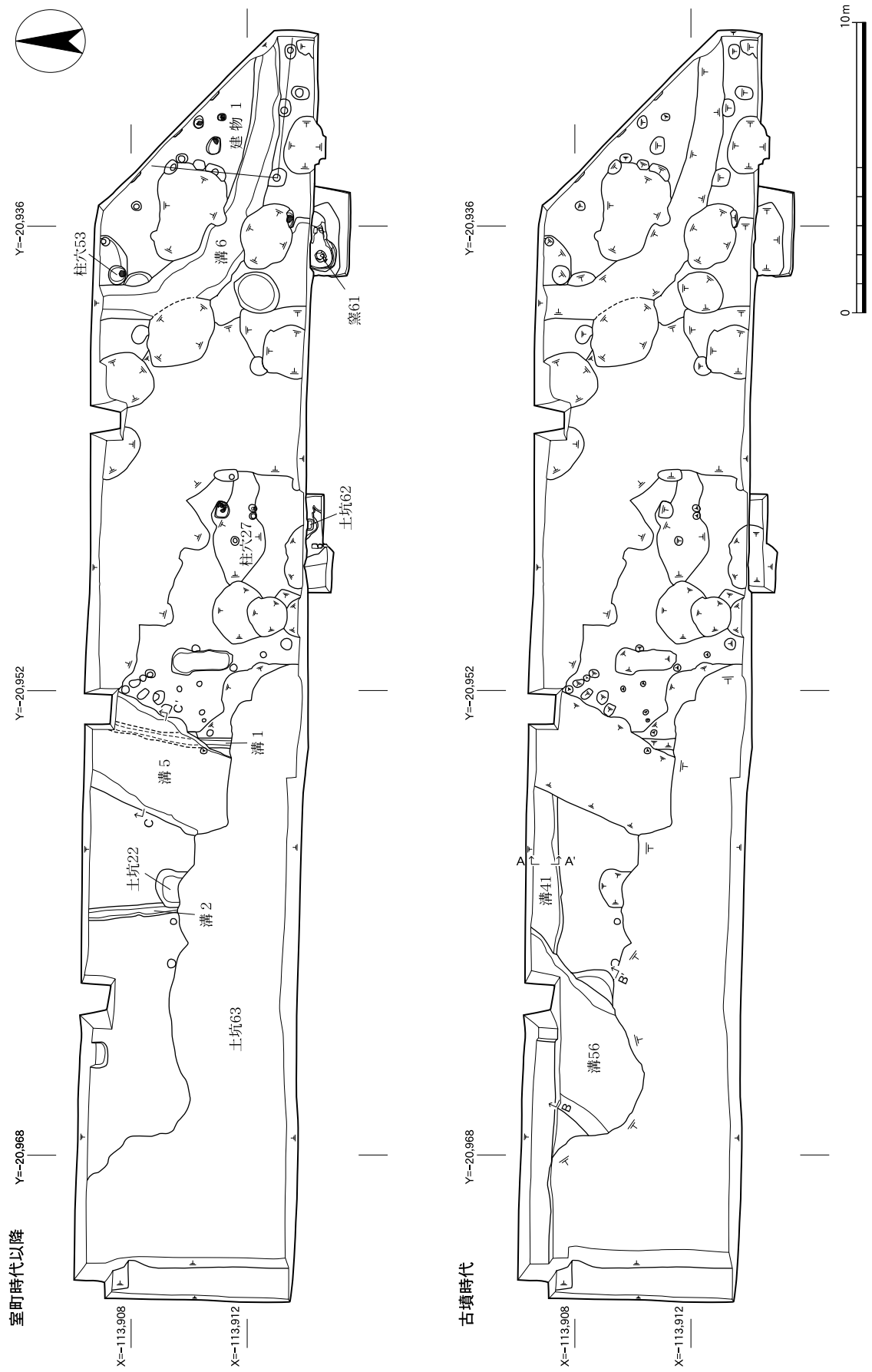


図6 1区遺構平面図 (1:200)

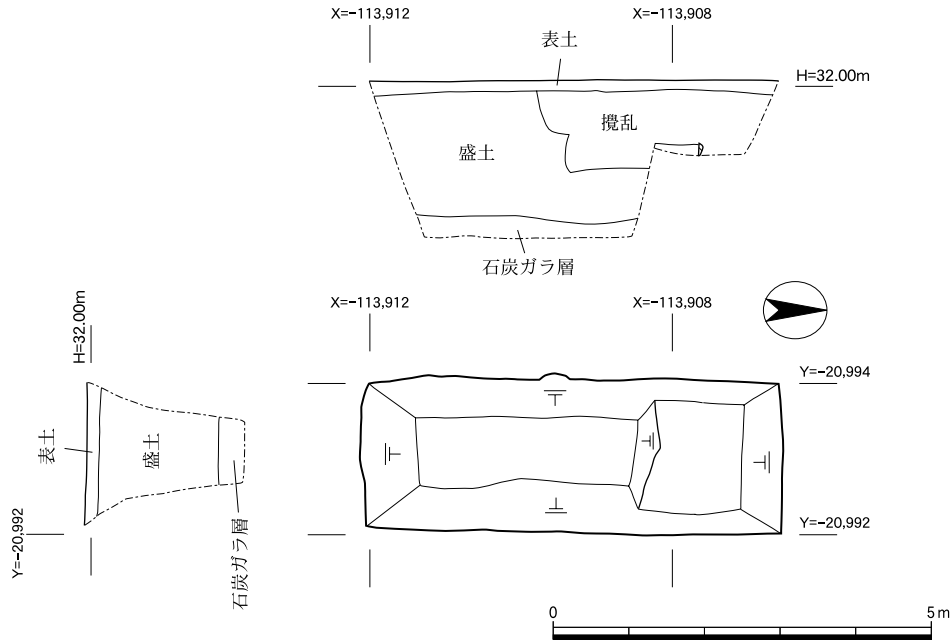


図7 2区遺構実測図 (1:100)

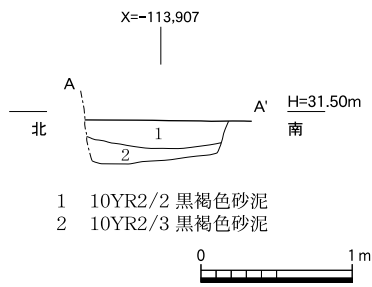


図8 溝41断面図 (1:50)

は後世の遺構により削平される。検出長東西約 5.5 m、幅 1 m 以上、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。埋土は黒褐色砂泥である。古墳時代前期の土器小片が出土した。

溝 56 (図 9、図版 41- 3) 1 区西部北側で検出した北東から南西方向の溝である。南側は後世の遺構により削平される。検出長約 5.1 m、幅 4 m 前後、深さ約 0.5 m を測る。断面形は幅広い U 字形である。埋土は黒褐色砂泥を主体とする

上層と腐植土層および砂層の下層に分かれる。下層の堆積状況から、この溝は流水と滞水が繰り返されたと考えられる。古墳時代後期の土器が出土した。

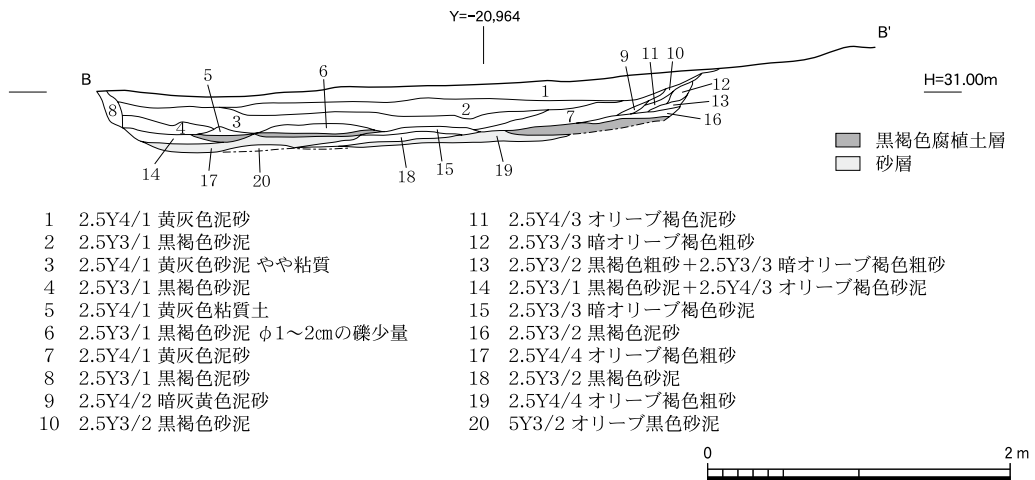


図9 溝56断面図 (1:50)



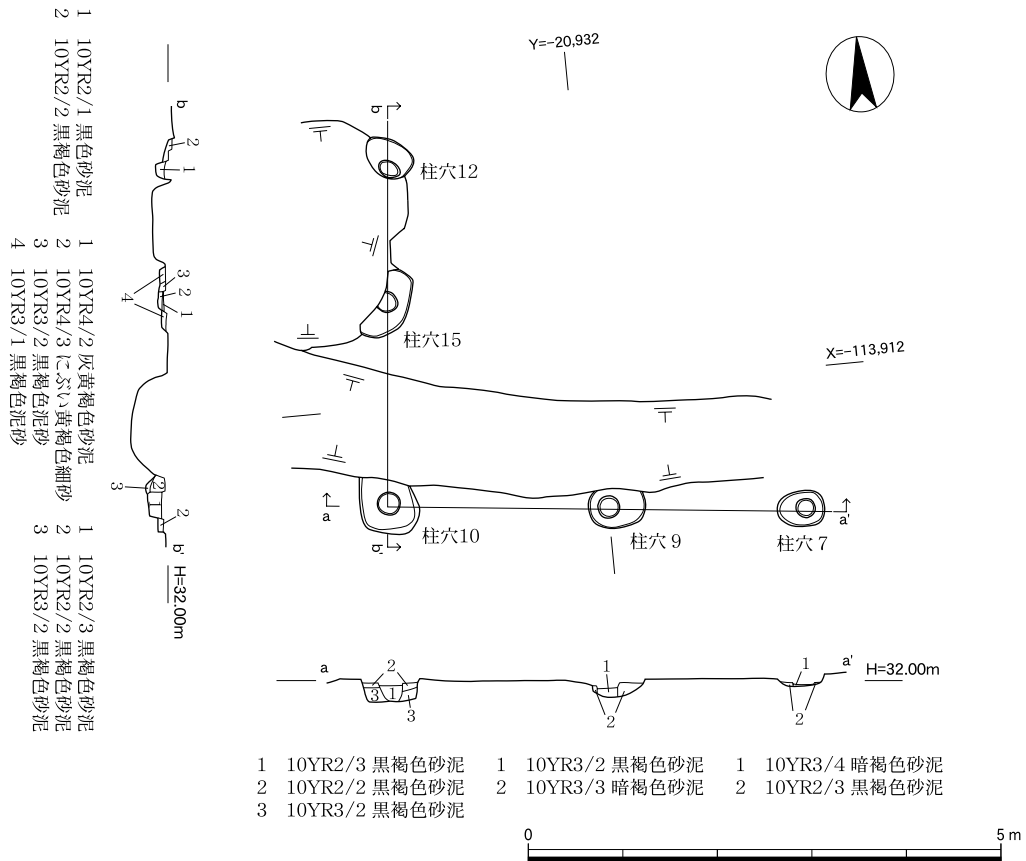


図10 建物1実測図 (1 : 80)

#### (4) 室町時代の遺構

建物1 (図10、図版42-1) 1区東部で検出した北でやや東に振れる掘立柱建物である。南北2間、東西2間分検出した。柱間は、南北列が約2.1m・1.4m、東西列が約2.1m・2.3mである。柱穴の規模は、径0.35～0.8m、深さ0.1～0.35mを測る。埋土は黒褐色砂泥を主体とする。室町時代前半の土器が出土した。

土坑22 (図11、図版42-2) 1区西部の黒色砂泥層上面で検出した。南側を後世の遺構により削平される。東西の径約1.3m、深さ約0.2mを測る。北西隅に瓦器羽釜が傾いて据わる。埋土は黒褐色砂泥である。室町時代の土器が出土した。

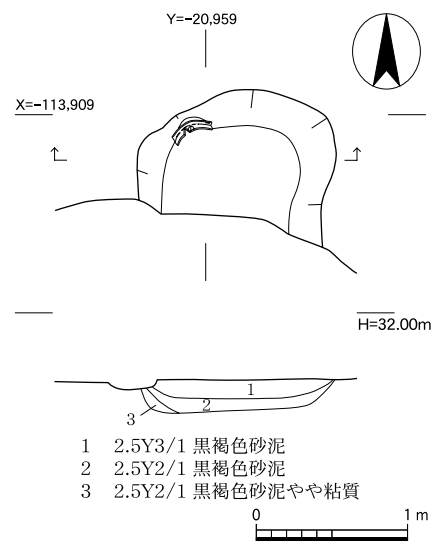


図11 土坑22実測図 (1 : 50)

柱穴・ピット群 (図6) 1区東部および中央部で柱穴やピットを多く検出した。

東部の柱穴は、根石を伴うものがある。深さ0.1～0.5mを測る。埋土は主に黒褐色砂泥である。遺物が出土したものは少なく、少量小片であり、室町時代前半、同後半の土器が出土した。

柱穴53は1区北東部で検出した。形状は円形であり、規模は径0.6m前後、深さ約0.3mを測

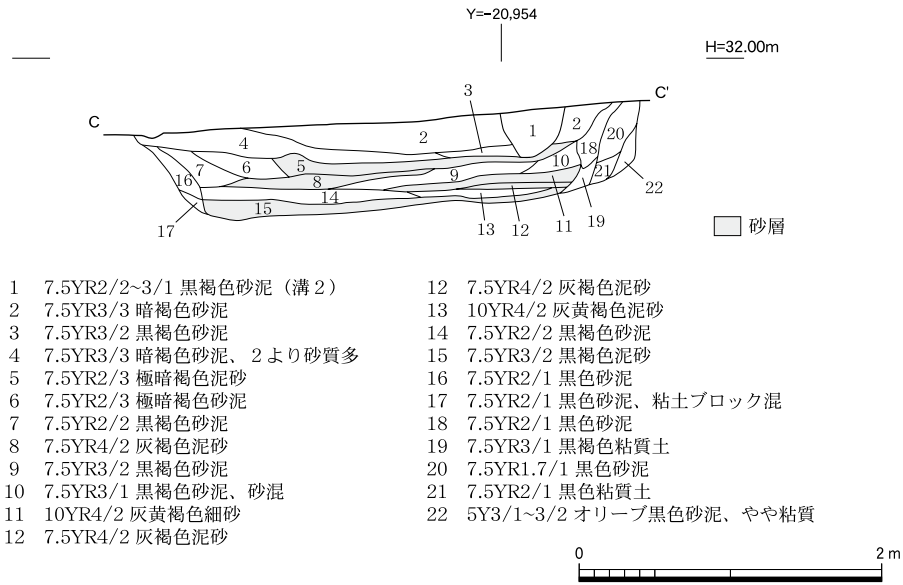


図12 溝5断面図(1:50)

る。南端に一辺0.15～0.2m、厚さ0.05mの台形状の河原石が据わる。埋土は黒褐色砂泥であり、土師器皿が出土した。

中央部のものは、ピットが多い。規模は径0.1～0.8m、深さ0.05～0.3mを測る。埋土は主に黒色・黒褐色砂泥である。遺物はほとんど出土しなかった。

柱穴27は1区中央部東側で検出した柱穴である。形状は円形であり、規模は径約0.3m、深さ約0.1m、柱痕は径0.15m前後を測る。埋土は黒色粘質土であり、瓦器羽釜が出土した。

これらの柱穴・ピット群は、出土した遺物から室町時代のものと考えるが、遺物の出土していないものもあり、近世の柱穴・ピットが含まれている可能性がある。

溝6(図6) 1区東部で検出した北から東へ弧をなす溝である。検出長約12m、幅0.9～1.7m、深さ0.4m前後を測る。埋土は黒褐色・褐色砂礫である。遺物は出土しなかったが、時期は、建物1を切ること、断面の層序(図5)から室町時代以降から江戸時代以前である。

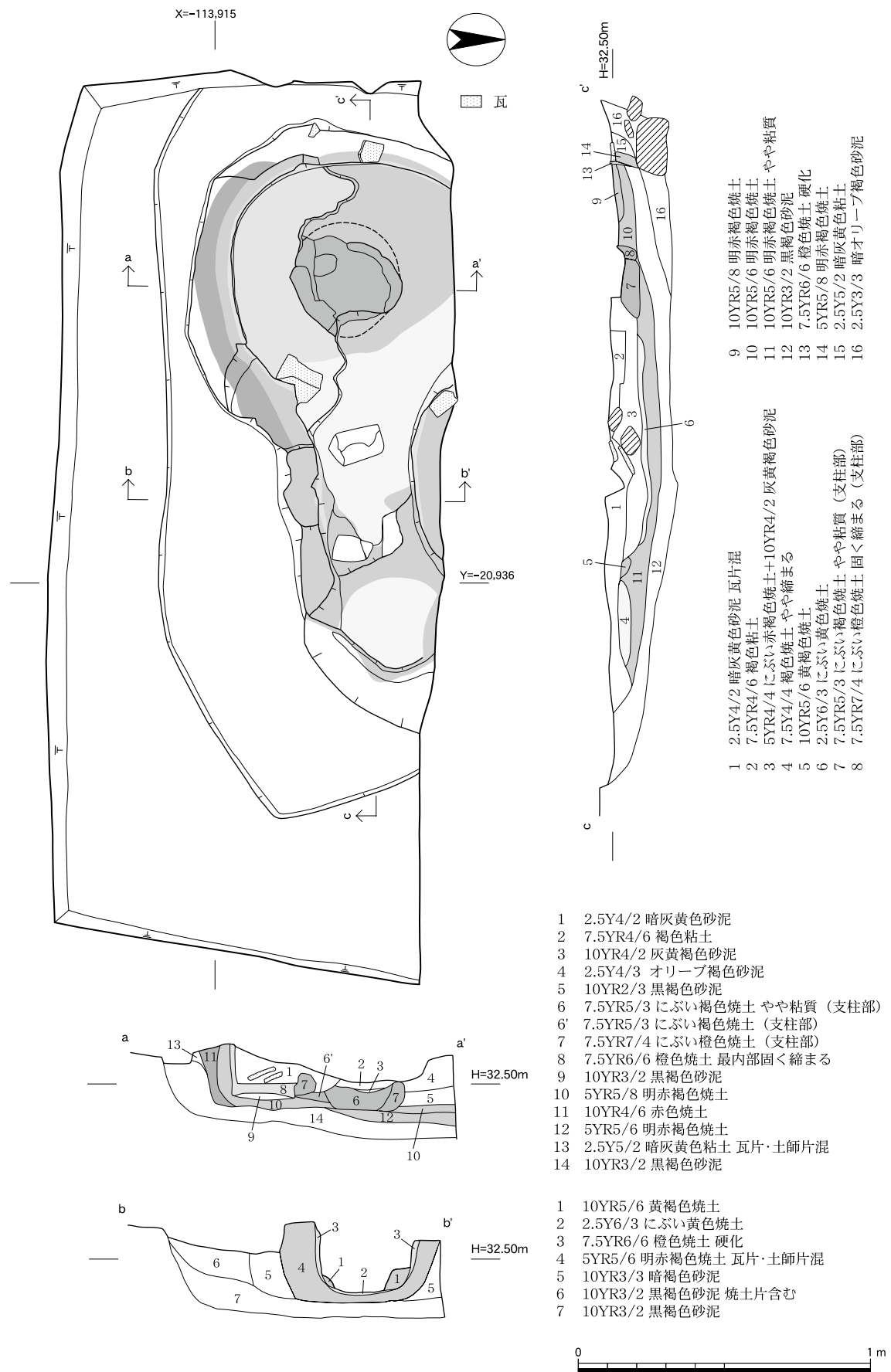
### (5) 江戸時代から明治時代の遺構

溝5(図12、図版42-3) 1区中央部で検出した北で東にやや振れる溝である。南側は後世の遺構により削平される。検出長約5.8m、幅3.0～3.4m、深さ0.6～0.7mを測る。断面形は幅広いU字形である。埋土は黒褐色～暗褐色砂泥の上層と砂泥と砂の互層である下層に分かれる。下層の堆積状況から、この溝は流水の時期があったと考えられる。江戸時代の土器が出土した。

溝1・2(図6) 溝1は1区西部の黒色砂泥層(図5-北壁13層)上面で検出した。検出長約3.2m、幅0.4m前後、深さ約0.1mを測る。埋土は黒色砂泥である。

溝2は溝5の上面で検出した。検出長約4.8m、幅0.35～0.4m、深さ約0.3mを測る。埋土は黒褐色砂泥である。両溝から江戸時代の土器が出土した。耕作溝であろう。

窯61(図13、図版43-1) 1区東拡張区で検出した。主軸方向が西でやや南に振れる伏見人



瓦

- 9 10YR5/8 明赤褐色焼土
- 10 10YR5/6 明赤褐色焼土
- 11 10YR5/6 明赤褐色焼土 やや粘質
- 12 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 13 7.5YR6/6 橙色焼土 硬化
- 14 5YR5/8 明赤褐色焼土
- 15 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土
- 16 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 瓦片混
- 2 7.5YR4/6 褐色粘土
- 3 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土+10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 4 7.5Y4/4 褐色焼土 やや締まる
- 5 10YR5/6 黄褐色焼土
- 6 2.5Y6/3 にぶい黄色焼土
- 7 7.5YR5/3 にぶい褐色焼土 やや粘質 (支柱部)
- 8 7.5YR7/4 にぶい橙色焼土 固く締まる (支柱部)

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 2 7.5YR4/6 褐色粘土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 5 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 6 7.5YR5/3 にぶい褐色焼土 やや粘質 (支柱部)
- 6' 7.5YR5/3 にぶい褐色焼土 (支柱部)
- 7 7.5YR7/4 にぶい橙色焼土 (支柱部)
- 8 7.5YR6/6 橙色焼土 最内部固く締まる
- 9 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 10 5YR5/8 明赤褐色焼土
- 11 10YR4/6 赤色焼土
- 12 5YR5/6 明赤褐色焼土
- 13 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土 瓦片・土師片混
- 14 10YR3/2 黒褐色砂泥

- 1 10YR5/6 黄褐色焼土
- 2 2.5Y6/3 にぶい黄色焼土
- 3 7.5YR6/6 橙色焼土 硬化
- 4 5YR5/6 明赤褐色焼土 瓦片・土師片混
- 5 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 6 10YR3/2 黒褐色砂泥 焼土片含む
- 7 10YR3/2 黒褐色砂泥

図13 窯61実測図(1:20)

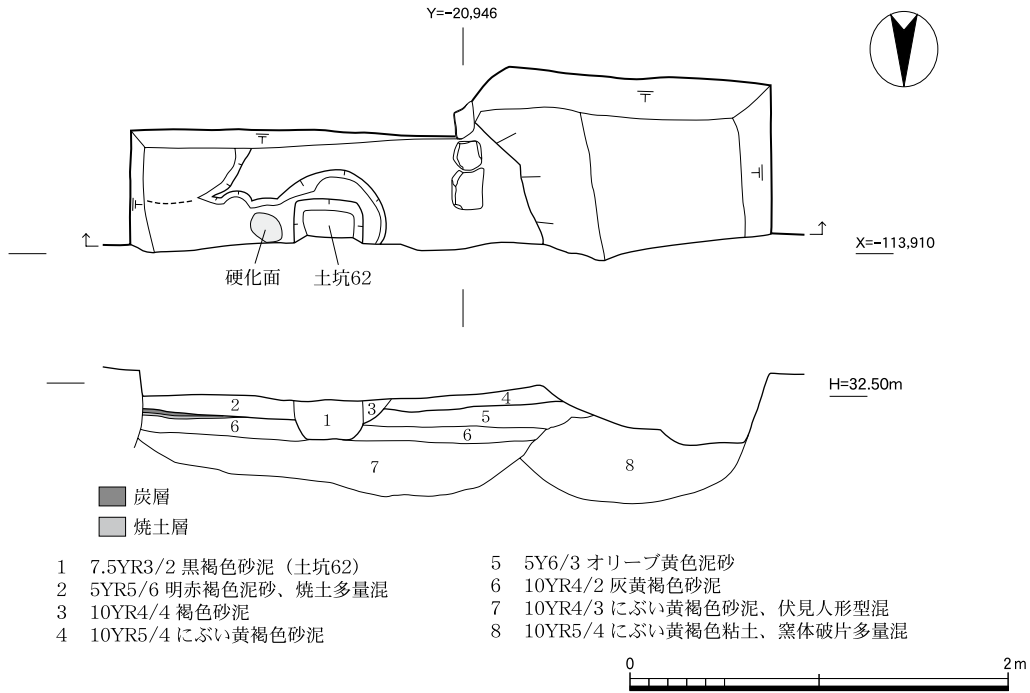


図 14 西拡張区遺構実測図 (1 : 40)

形の窯跡の基底部である。全長約 1.9 m、窯本体は直径約 1.1 m の円形で、中央に径 0.4 m 前後の支柱を持つ。焚口部は窯の東に設けられており、長さ約 0.8 m、幅 0.5 m 前後を測る。掘形の規模は東西 2.5 m 以上、南北 1 m 以上である。窯の上部は削平されており、残存高約 0.2 m である。窯は内側表面が被熱のため硬化しており、窯壁を構成する粘土は外側に向かって赤化する。また、窯体には瓦片が混じる。これは補強材であろう。窯の覆土から、伏見人形製品と土器など幕末から明治時代の遺物が出土した。

土坑 62 (図 14、図版 43- 2) 1 区西拡張区で検出した。検出長は東西約 0.4 m、南北 0.2 m 以上、深さ約 0.2 m を測る。内部は被熱し、周辺の土間には硬化した面がある。西側には径 0.15 ~ 0.2 m の河原石を 3 個以上、南北に並ぶ。この石列は窯 61 の西約 10 m に位置し、何らかの区画の可能性がある。また土間には炭層と焼土層が互層に堆積しており、炉などを伴う何らかの小規模な作業空間と考えられる。幕末から明治時代の遺物が出土した。

土坑 63 (図 6) 1 区南西部で検出した。検出規模は東西 20 m 以上、南北 7 m 以上、深さ 1 m 以上であり、調査区外の南西に広がる。埋土は上層は砂泥層、下層は泥土層であり湿地状を呈する。この下層から伏見人形の土型が大量に出土した。また幕末から明治時代のものを主とする土器が出土した。

## 4. 遺 物

### (1) 出土遺物の概要

遺物は整理箱で33箱出土した。内訳は瓦類1箱、土器類9箱、伏見人形関連遺物23箱である。

弥生時代の遺物は、後世の遺構から少量の土器が出土したにすぎない。

古墳時代の遺物は、土師器高杯・甕、須恵器杯・蓋などがあり、溝などから少量出土した。

飛鳥時代から平安時代の遺物は、土師器皿小片、須恵器杯・壺・甕、緑釉陶器碗、灰釉陶器小片、瓦片などがあり、後世の遺構や包含層などから少量出土した。

鎌倉時代から室町時代の遺物は、土師器皿、須恵器甕、瓦器釜・鍋、輸入陶磁器青磁・白磁小片、瓦片などがある。鎌倉時代のものは少量・小片であり、室町時代のものは柱穴などから出土した。

江戸時代の遺物は、土師器皿、染付陶磁器、磁器、施釉陶器、焼締陶器、瓦片などがあり、溝・土坑などから出土した。出土遺物は残存状態の良好なものは少なく、小片も含めて図示したものを記述する。

また、土坑63から大量に出土した伏見人形・土型などについては、図・表にまとめて掲載した。

### (2) 古墳時代の土器（図15、図版44）

(1・2)は土師器高杯裾部である。1は復元底部径は11.2cm、端部は下方にわずかに肥厚する。2の復元底部径は23.0cm、端部は上方にわずかにつまみ上げる。内外面にヘラミガキを施す。1・2は溝41から出土した。時期は古墳時代前期と考える。

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
弥生時代	弥生土器			2箱	2箱
古墳時代	土師器、須恵器		土師器4点		
飛鳥時代～ 平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉陶器、瓦類		土師器1点、須恵器5点、 緑釉単彩陶器1点		
鎌倉時代～ 室町時代	土師器、須恵器、輸入陶磁器、 瓦器、瓦類		土師器5点、瓦器3点	2箱	1箱
江戸時代	土師器、染付陶磁器、施釉陶 器、磁器、焼締陶器、銭貨		土師器1点、銭貨1点	1箱	
幕末～明治時代	土師器、染付陶磁器、施釉陶 器、磁器、焼締陶器、瓦類、 伏見人形関連遺物		伏見人形原型11点、製品26点、 道具類2点、土型327点	29箱	2箱
合 計		55箱	387点(16箱)	34箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。

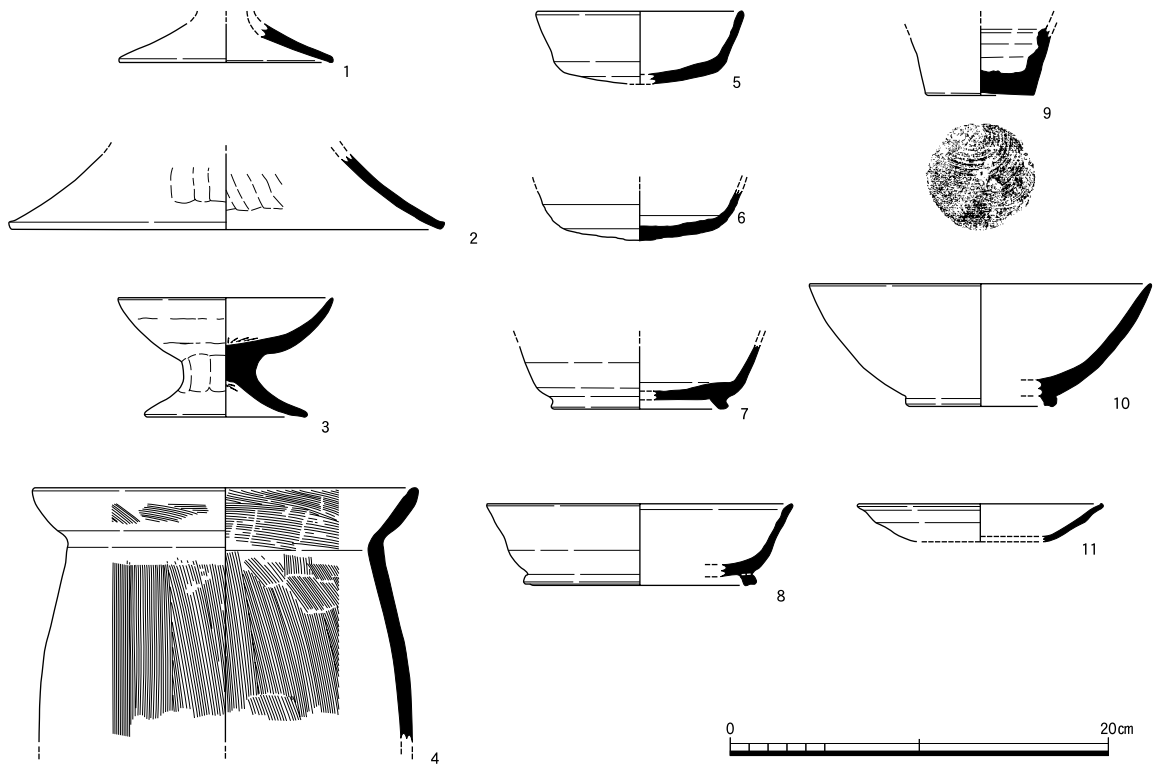


図 15 古墳時代から平安時代の土器実測図（1：4）

(3)は土師器高杯である。口径 11.3 cm、器高 6.3 cm、底部径は 9.1 cmを測る。杯部体部は内湾し、口縁端部は丸くおさまる。内面底部には、脚部を成形したヘラ押しの痕が渦巻き状に残る。脚部は強いナデで成形する。裾部は緩く外反し、端部は丸くおさまる。裾部と脚部の転換部の内面は、時計回りのナデを施し渦巻き状になる。(4)は土師器甕である。口径 20.2 cm、残存高 13.5 cmを測る。体部から口縁部は「く」の字状を呈し、屈曲部外面は強い横ナデを施す。口縁部は緩く内湾し、端部は丸くおさまる。内外面共にハケメ調整を施し、口縁部は横方向のもの、体部は縦方向のものが主である。3・4は溝 56 から出土した。時期は古墳時代後期である。

### (3) 飛鳥時代から平安時代の土器 (図 15、図版 44)

(5・6)は須恵器杯である。5は口径 10.8 cm、器高 4.3 cm、6は底部径 9.4 cm、残存高 3.5 cmを測る。底は丸味を帯びた平底で、体部は外に開き、口縁端部は丸くおさまる。(7・8)は高台が付く須恵器杯である。7は底部径 9.4 cm、残存高 3.4 cmを測る。体部は外に開き、断面が方形でやや外反する高台が付く。8は口径 16.1 cm、器高 4.3 cmを測る。体部は外に開き、口縁端部はつまみ丸くおさまる。断面が方形でやや外に張る高台が付く。5・6・8は1区西部包含層(図 5-北壁 9層)、7は溝 5 最下層から出土した。時期は7世紀末期から8世紀初期に比定できる。

(9)は須恵器壺である。底部径 5.6 cm、残存高 3.7 cmを測る。体部最下部は器壁が厚くなり、段をなす。底部外面は糸切り痕が残る。溝 5 最下層から出土した。時期は8世紀後期に比定できる。

(10)は緑釉単彩陶器碗である。口径 18.0 cm、器高 6.5 cmを測る。体部は平坦な底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。断面が方形でやや外に張る高台が付く。溝 5 中層

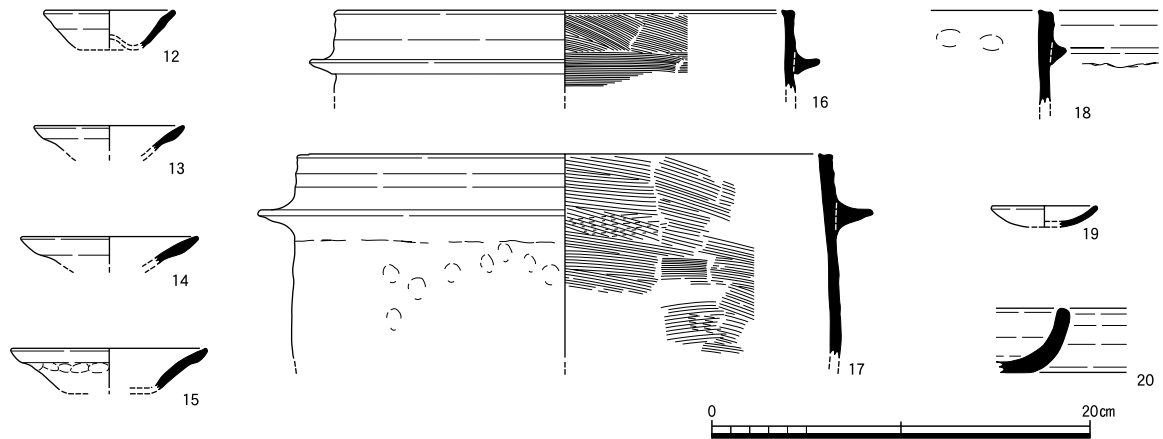


図 16 室町時代から江戸時代の土器実測図（1：4）

から出土した。時期は京都 I 期中に<sup>1)</sup>比定できる。

(11)は土師器皿である。口径 13.0 cm、器高 2.0 cm を測る。体部は外に開き、上端から口縁は外反し、端部は上方へわずかに肥厚する。1 区西部包含層（図 5 - 北壁 13 層）から出土した。時期は京都 II 期新～III 期古に属する。

#### (4) 室町時代の土器（図 16、図版 44）

(12～15)は土師器皿である。12はへソ皿であろう。口径 5.6 cm、残存高 2.0 cm を測る。口縁部は器壁が厚くなり、端部はわずかに外反し丸くおさまる。13は口径 8.0 cm、残存高 1.3 cm、14は口径 9.4 cm、残存高 1.5 cm を測る。口縁部は外方に開き、器壁が外にやや厚くなり、端部は丸くおさまる。15は口径 10.4 cm、残存高 2.2 cm を測る。体部は外反し、口縁部は器壁が外にやや厚くなり、端部はつまみ丸くおさまる。(16・17)は瓦器羽釜である。16は口径 24 cm、残存高 4.4 cm を測る。鏝はやや大きく張り出し、内面には右下がり<sup>1)</sup>と横位のハケメ調整を施す。外面には黒色物が付着する。17は口径 27 cm、残存高 10.8 cm を測る。鏝は大きく張り出し、内面にはやや目の粗い横位のハケメ調整を施す。12～17は土坑 22 から出土した。時期は京都 期新～IX 期中に属する。

(18)は瓦器羽釜である。口径は不明、残存高 5.0 cm を測る。鏝は小さく張り出し、断面が三角状である。柱穴 27 から出土した。時期は 16 世紀代に比定できる。

(19)は土師器皿である。口径 5.6 cm、器高 1.1 cm を測る。体部は内湾し、口縁は丸くおさまる。柱穴 53 から出土した。時期は京都 X 期新～XI 期中に属する。

#### (5) 江戸時代の遺物（図 16・17）

(20)は土師器焙烙である。口径は不明、器高 3.4 cm を測る。体部は平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。溝 5 から出土した。時期は 17 世紀後期から 18 世紀前期に比定できる。

(21)は錢貨の寛永通寶である。径 2.4 cm を測る。窯 61 の本体覆土から出土した。

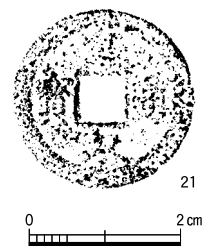


図 17 錢貨拓影（1：1）

## (6) 伏見人形関連遺物

土坑 63 から大量に出土した。これらの遺物を分類するには、伏見人形の生産工程を知る必要があるため、ここで、その流れを記述しておく。

原型（雄型）の製作→焼成→土型（雌型）の製作→焼成→生地<sup>1)</sup>の型抜き（型に粘土を詰める）→生地（製品）の乾燥→焼成→胡粉塗り・彩色、そして完成となる。原型からは土型を必要数を製作し、その土型を使用して生地を何度も製作する。原型は長期間に渡り使用され、土型も長年使用される。

出土した遺物は、原型、土型、製品（彩色なし）、道具類などであり、大部分が土型である。その分類の方法は『伏見人形の原型 六代目丹嘉<sup>2)</sup>』に準拠した。分類の大型・中型・小型などは相対的なものである。ここでは原型、製品、道具類、土型の順に記述する。

### 原型（図版 1・2、図 18、附表 1）

原型は 16 点出土した。そのうち 10 点を図示した。原型は良質な粘土を使い、焼成は良好で硬い。表面はミガキで光沢を帯び、側面などに土型のつなぎ目を示すヘラ描きの指示線が施される。

（原 1）は中型の天神である。頭部を欠く。表面は丁寧なミガキを施す。側面および底面にはヘラ描き線がある。底面には 2～3 mm の小孔が右前と左後ろの対角に 2 箇所ある。空気抜きの穴か。（原 2）は大型の童子である。その服装から唐子であろう。胸部から上部を欠く。表面は丁寧なミガキを施し、また雲母が付着したためか光沢を帯びる。側面および底面にはヘラ描き線がある。底面には 3 mm 前後の小孔が左前と後ろ中央にある。（原 3）は帯の位置から中型の大夫である。頭部を欠く。表面は丁寧なミガキを施す。側面および底面にはヘラ描き線がある。（原 4）は小型の人物である。上部を欠く。表面は丁寧なミガキを施す。側面および底面にはヘラ描き線がある。底面には 3 mm 前後の小孔が左前と後ろ中央にある。（原 5）は小型の泥面子である。右の周囲を欠く。文様は鶴であり、家紋であろう。側面は丁寧なミガキを施し、横に走るヘラ描き線がある。裏側は少し凹むオサエである。（原 6）は中型の泥面子である。右半を欠く。文様は龍王である。側面は丁寧なミガキを施し、横に走るヘラ描き線がある。裏側は約 1 cm 凹み、側面内面にはナデを施す。（原 7）は宝珠と考えるものである。ほぼ完形である。表面はミガキを施し、内面はナデを施す。側面の下から約 0.5 cm の所に 1 周するヘラ描き線がある。（原 8）は中型の鞠の半身と考えるものである。外径は 7.8 cm、中心には上面が径 2.0 cm 前後、下面が径 1.5 cm 前後の穿孔がある。文様は蓮華文で花卉先端が三角状である。側面と底面の表面はミガキを施す。側面には下から約 1 cm の所には 1 周するヘラ描き線がある。また横線から下までの縦線がある。（原 9）は判子である。形状は正方形の台に逆台形の取手がつく。印の文様は方形の渦巻きである。表面のミガキは不明瞭である。把手に「中石」と読めるヘラ描きがある。製品の可能性もあるが、良質な粘土を使い、焼成が良好で硬いことから原型と考えておく。（原 10）は大型の三ツ竈である。右側が欠損している。表面はミガキを施し、雲母の付着が顕著である。ヘラ描き線は正面の最下部と背面の最上部にあり、側面にはそれらをつなぎ、線が斜めに走る。壁は薄手で中は空洞である。



原型にはこの他に、人物、牛、灯籠、容器などの小片があり、不明のものに「城戸」と読める刻印のついた資料（刻1）がある。

#### 製品・道具類（図版2・44・45、付表2）

製品・道具類は、214種、335点、種類不明の破片が359点、合計で694点出土した。製品の種類には人形、実用品、用途不明の容器類などがある。出土した土型にない製品は、猪・法具・ひよつこなど少数である。

用途不明の容器類は、39種、78点出土した。これらほぼ全てがロクロ成形で、胎土は密、色調は灰白色～灰黄色である。ややもろく、素焼生地と考えられる。完形のものが多い。（製1～3）は蓋形である。最大径は4.1～7.0cm、器高は1.7～2.5cmを測る。製1はツマミが付き、口縁部は外反して、上方に立ち上がる。製2は天井部は平坦で、端からやや内側に下方へ口縁部が付き、端部は丸くおさまる。製3も天井部は平坦で、端からやや内側に下方へ口縁部が付き、やや内湾して端部は丸くおさまる。天井部外面はミガキを施す。（製4）はつぼつぼ形である。口径3.1cm、器高2.3cm、体部最大径5.0cmを測る。体部は、底部から内湾しながら張り出し、口縁部へはすばまる。端部は丸くおさまる。体部外面はミガキを施す。（製5～7）は皿形である。口径6.6～7.9cm、器高1.7～2.3cmを測る。丸底底部から内湾して体部は立ち上がり、端部は平たくなる。底部から体部外面に横のミガキを施す。製5は残存約2/3である。（製8～13）は椀形である。口径5.9～9.0cm、器高2.4～4.3cmを測る。平底底部から内湾して体部は立ち上がる。底部外面は、ナデ調整と糸切り痕のものがある。製8は口縁端部がやや肥厚して丸くおさまる。製9は口縁端部が丸くおさまり、底部外面には糸切り痕が残る。製10は端部がケズリで平たくなる。底部外面には糸切り痕が残る。製11・12は端部が丸くおさまる。製13は端部が丸くおさまり、底部外面には糸切り痕が残る。（製14～16）は筒形である。口径3.8～4.8cm、器高2.3～2.9cmを測る。底部は和笠のように中央が尖り、体部はほぼ垂直に立ち上がる。製14は口縁端部が丸くおさまり、体部と底部の外面にミガキを施す。製15は端部が内傾し、体部と底部の外面にミガキを施す。製16は端部が平たく、底部外面外周にミガキを施す。（製17～19）は罎付き筒形である。口径4.2～7.6cm、器高2.1～3.4cmを測る。底部は平底、体部はほぼ垂直に立ち上がり、底部よりわずかな上の体部に幅3～6mmの罎が付く。その厚さは2～5mmである。製17は口縁端部が内傾する。製18は端部が平たくなる。製19は端部が細く剥離し、使用痕が残る。体部外面は少し傾く縦のミガキを施す。（製20）は高台付き筒形である。口径6.6cm、器高4.4cmを測る。体部はやや内湾して立ち上がり、口縁端部は平らである。高台は削り出し、内側が内傾する。高台には縦4mm、横9mmの方形の穿孔が、90度間隔で4個あく。（製21）は釜形である。口径5.6cm、器高2.4cmを測る。底部は丸底、体部はわずかに内傾し、口縁端部は丸くおさまる。口縁部のすぐ下に罎がつく。幅9mm前後、厚さ2mm前後である。体部下から底部の外面にはミガキを施す。（製22～25）は鍋形である。口径4.1～7.9cm、器高1.4～2.0cmを測る。底部は平底、体部はわずかに外反し口縁部は肥厚する。端部は外方に平たく広がる。幅7～9mm、厚さ2～4mmである。製24・25は底部から体部にかけての外面はケズリで面取りを施す。（製26）は深い鍋形である。口径3.3cm、

器高 2.9 cmを測る。底部は丸底、体部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は屈曲して、やや内湾しながら外に開く。端部断面は方形である。体部と底部の外面にはミガキを施す。

道具類は、壺形（製 27）と椀形（製 28）が出土した。製 27 は、口径 3.9 cm、器高 8.9 cm、体部最大径 7.9 cmを測る。頸部はほぼ垂直、口縁部は平たい。体部は横に膨らむ。頸部の下部には 5 mm前後の穿孔が 180 度間隔で 2 個ある。体部上部から口縁部の内外面は施釉し、底部外面は使用痕が残る。播り道具として使用されたものであろう。製 28 は、口径 10.6 cm、器高 4.7 cmを測る。底部はわずかに凹む。体部は内湾して立ち上がる。口縁部は肥厚して段をなし、断面は方形である。内面には、白灰色の付着物がある。胡粉入れか。

#### 土型（図版 3～40・45・46、図 18、附表 3）

土型は、515 種、1,037 点、種類不明の破片が 197 点、合計で 1,234 点出土した。それらには表（表側）、裏（裏側）、半身のもの、頭が右向き（頭右）、同左向き（頭左）、上部、下部のものなどがある。また少数であるが、割れ目を漆で補修したものもみられる。土型のあわせ面には、型抜き時に余分な粘土をかきとった使用痕が残るものが多いにある。

土型の外側にはヘラ描きの年号・文字・記号、刻印、墨書がしるされているものがある。年号と考えるものは 17 点、屋号と考えるものが 176 点ある。そのうち、「今」・「綿治」・「ワタシ」・「ワタ治」が 20 点、「大」が 81 点、「大リ」が 9 点、「木治」が 37 点、その他の「井伊」などの文字が 16 点である。その他、「#」などの記号と考えるものは 17 点、判読不明のものは 17 点で総計 227 点ある。刻印は 3 種類、11 点ある。ひとつは型内側にあり、「城戸」とよめる凸状の逆字が 9 点ある。これは原型に押された押印（刻 1）が、土型に転写したものである。その他に「鶉山」（刻 2）が 1 点、判読不明のものが 1 点ある。これらは型外側にあり、凹状の正字であることから、土型に押されたものである。墨書は 8 点あり、屋号 2 点、不明 6 点である。

土型は 7 類に分類し、それぞれの種類、型類、個数などの詳細は分類表に記した。

1 類は信仰・縁起物の土型。天神、七福神の大黒天・恵比寿・布袋・福祿寿、狐（眷族）、狛犬、鳥居、蔵、俵、舟、お多福、福助、友引人形、達磨がある。型は裏側が多めで、天神、大黒天、恵比寿が多くを占める。狛犬は狛犬と獅子とが対のものであり、両者がある。ヘラ描きには、天神（型 2）の外側に「今」を刻んだ例があり、屋号であろう。布袋（型 36）の「午祭木治」は、伏見稲荷大社の 2 月に行われ盛況を呈する初午と関連するものであろうか。年号のヘラ描きは、蔵に「安政四年」（1857）が（ヘラ 2）と他 1 点ある。天神にも年号に関連すると思われるもの（ヘラ 8）がある。舟（型 54）の底部内面には、「綿治」と読める凸状の逆字がある。原型に描かれたヘラ描きが転写したものであろう。

2 類は教訓・説話物の土型。饅頭喰い、西行法師がある。土型の種類全体に占める割合は小さい。饅頭喰いは、童子に「父母のどちらが大切か」と問うと、饅頭を半分に割り、「どちらがおいしい」と答えた説話に由来するものである。西行法師は「泥棒よけ、腹痛よけ」のご利益があるといわれる。

3 類は節句・歌舞伎物の土型。熊金（金太郎）、武者、馬曳三吉がある。土型の種類全体に占め



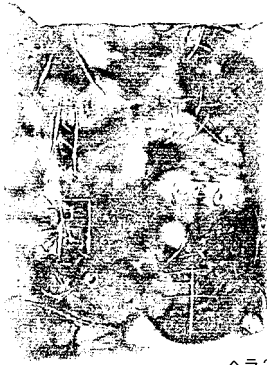
ヘラ1



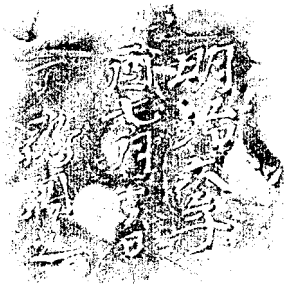
ヘラ4



ヘラ5



ヘラ2



ヘラ3



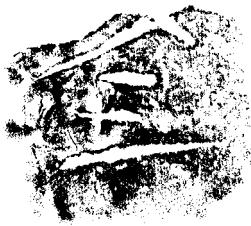
ヘラ8



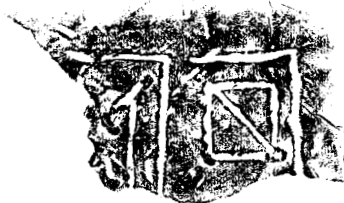
ヘラ6



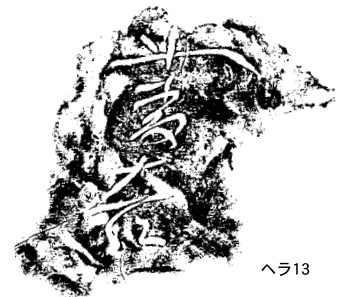
ヘラ7



ヘラ9



ヘラ12



ヘラ13



ヘラ10



ヘラ11



刻1



刻2



図18 ヘラ描き拓影(1:2)、刻印拓影(1:1)

る割合は小さい。馬曳三吉は歌舞伎由来のものである。

4類は人物の土型。童子、女物、力士、男物、その他不明がある。童子と女物が多い。年号のヘラ描きが「童子と鯛」に2点ある。「明治六年」(1873)と「明治十年」(1877)である(ヘラ3・4)。力士にも「明治十一年」(1878)が描かれる(ヘラ5)。虚無僧には全て、ヘラ描き「木治」が描かれる。

5類は動物・植物の土型。動物には十二支のネズミ、牛、兎、蛇、馬、猿、ニワトリおよび犬、猫、鳩、雀、鯛、蛤、貝、植物には桃、筍、瓢箪がある。土型の中では型と点数が一番多く、特に犬、馬、牛などが多い。犬は狛(ちん)がほとんどである。蛤内面には、大陸風の門と波頭、松と思われるものなどが見える。竜宮城を表したものか。猫の(型188・189)は型抜きの後に前足や耳を付けるものである。年号のヘラ描きは、犬の「寛政七年」(1795)が一番古く(ヘラ1)、「明治十八年」(1885)のものが一番新しい(ヘラ6)。礼者猿には「明治四年」(1871)がある。礼者猿は、5点中4点に年号に関連するヘラ描き「申」が描かれる(ヘラ7)。また猿には「ワタシ」(ヘラ10)がある。その他、犬のヘラ描きに「萬吉」と読めるもの(ヘラ13)があり、職人などの名前と考えられる。

6類は遊具とその他の土型。神輿、小判、神楽太鼓、太鼓橋、火吹き竹、顔、灯籠、泥面子、種別不明などがある。泥面子が大部分を占め、大型、中型、小型がある。図柄は歌舞伎の家紋と考えられるもの、十二支、将棋の駒などがある。小判(型213)の側面には「金」の字が横に連続して並ぶ。ヘラ描きには、泥面子の外側にヘラ描き「大」のあるものが69点あり、泥面子全体の約4割を占める。刻印には、種別不明の型外側にある凹状の正字である「鶉山」(刻2)があり、2箇所押す。

7類は実用品の土型。でんぼ、胡麻煎り、風鈴?、五徳、容器類などがある。柚子でんぼにヘラ描き(ヘラ11・12)がある。記号らしきものであるが、屋号かもしれない。

破片の中にも屋号と思われるヘラ描き、「令」(ヘラ9)などや墨書不明がある。

#### 註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 2) 六代目丹嘉大西重太郎、奥村寛純『伏見人形の原型 六代目丹嘉』伏見舎・伏見人形窯元丹嘉 1976年

## 5. ま と め

今回の調査で最も大きな成果は、伏見人形の窯跡検出と、伏見人形の土型が多量に出土したことである。以下では遺構を検出した1区の調査成果に基づき、当地の歴史の変遷と伏見人形窯と出土した伏見人形関連遺物についてまとめる。

### (1) 検出した遺構について

弥生時代の遺構は検出できなかったが、後世の遺構から弥生土器が出土した。周辺の既往調査でも弥生時代の遺構を検出していることから、調査地近隣に弥生時代の遺構の存在が想定できる。

最も古い遺構は、1区西部で検出した古墳時代の溝である。東西溝41とそれより新しい北東から南西方向の溝56がある。溝56は北西へ傾斜する等高線とほぼ並行して掘られており、人為的な溝の可能性がある。また後世の遺構から、飛鳥時代後半から奈良時代と長岡京期前後から平安時代中期の遺物が少数出土した。このことから調査地近隣に当該期の遺構が存在した可能性がある。

室町時代の遺構は、本町通に面した1区東部で柱穴・ピットを多く検出した。このことから1区東側の微高地平坦面は宅地として土地利用されたと考えられる。その中の建物1の方向は、北に向かってやや東に振れる。この地域の条里も北に向かってやや東に振れることから、条里の振れに影響を受けたと考えられる。本町通の方向とずれるのは、この通りが桃山時代につくられた後世の街道であるためであろう。

江戸時代から明治時代の主な遺構は、溝5と窯61である。江戸時代の溝5は、断面形は浅い幅広のU字形であることから、人工的に掘削したと考えられる。窯61は伏見人形の窯跡である。本町通に面した地域は、東福寺や伏見稻荷大社の門前町として江戸時代から繁栄しはじめ、伏見人形製作や販売などの町屋が連なっていたが、窯はその製作所の町屋にあったものであろう。本町通は鉄道開業時期まで大いににぎわっていたと考えられる。それに対して、1区西部は町屋の裏手にあたり、耕作土が堆積していることから、耕作地として利用されていたと考えられる。

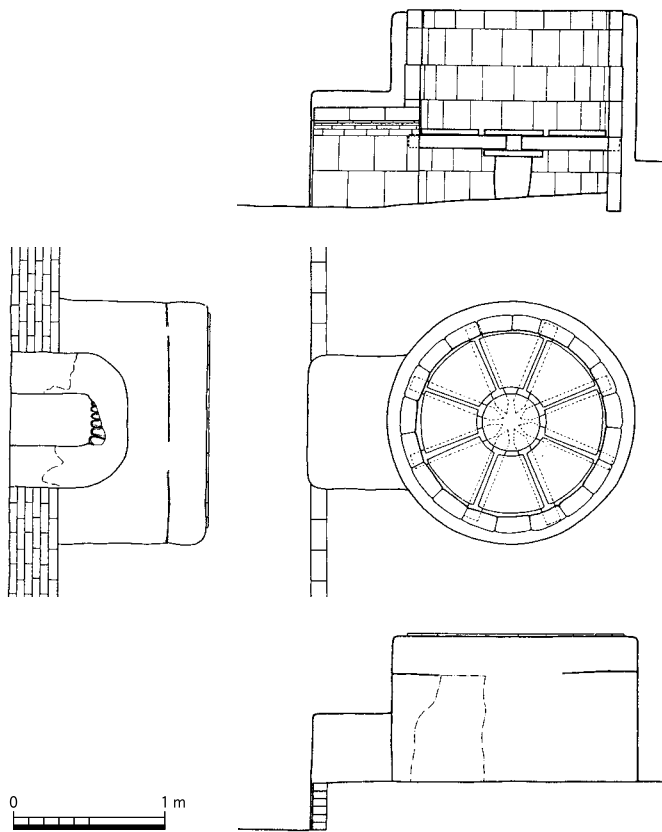


図19 伏見人形（丹嘉）の桶窯（1：50）

## (2) 伏見人形の窯と関連遺物について

窯 61 は桶窯といわれる焼き物の焼成窯で小型に属する。この窯跡と類似した「丹嘉」の耐火レンガ組み桶窯が図化されており、参考のため掲載する<sup>1)</sup>(図 19)。今回検出した窯は、所在位置から、明治時代末期に転業したといわれる「ふくち屋」(図 20 - 1)のものであろう。また土坑 63 から

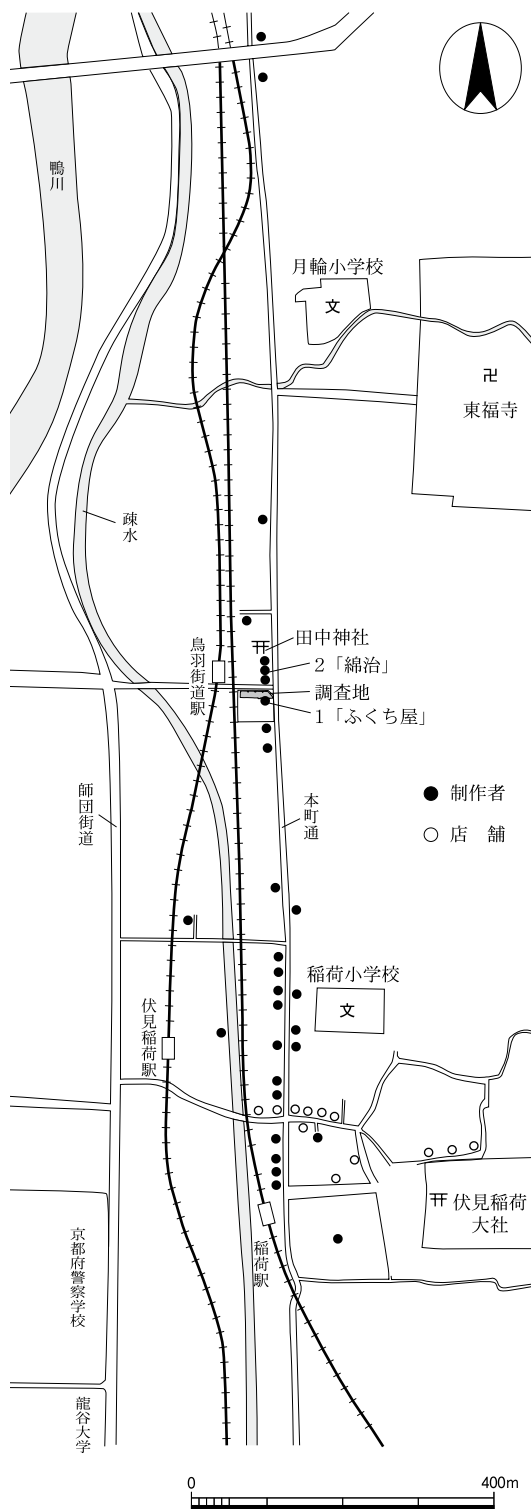


図 20 伏見人形関連者位置図 (1 : 10,000)

ら多量に出土した土型のヘラ描きをみると、「今」「綿治」「ワタ治」「ワタシ」が 20 点と多い。さらに「ワタ」「綿」「ワ」「治」などを加えると、30 点前後ある。これは本町通に面して操業していた伏見人形の窯元の屋号「綿治」(図 20 - 2)を示すヘラ描きである。この窯元は戦前まで人形製作をしていたといわれる。今回、出土した土型の大部分は、この窯元が廃業時に廃棄したものであると考える。ちなみに綿治の廃業年代は終戦前後である。また、ヘラ描きの年号や出土土器は、幕末から明治時代のものが多いことから、型の製作時期はその頃まで遡ると考えられる。その他に(型 153)や(型 248)のような屋号と思われるものが少なからずある。これは、人形製作者が廃業や転業した時に、原型や土型を譲り渡す場合があるといわれていることを示すものであろう。あるいは、調査地近隣の複数の製作者が廃棄した可能性も残る。

### 註

- 1) 図 19 は、木立雅朗『伏見人形の窯をめぐって—近世京都の窯業についての予察—』「立命館大学考古学論集 I」立命館大学考古学論集刊行会 1997 年に掲載されている「図 1 伏見人形(丹嘉)の桶窯」をスケール調整をして転載したものである。
- 2) 図 20 は、六代目丹嘉大西重太郎、奥村寛純『伏見人形の原型 六代目丹嘉 伏偶舎・伏見人形窯元丹嘉 1976 年 掲載の図版 779 と、京都市都市計画基本図「京都駅」および「勧進橋」を参考に作成した。明治時代末期から昭和初期までの伏見人形製作者と店舗の位置を示す図である。

付表1 伏見人形原型(雄型)分類表

名 称	個数	遺物番号	横幅(mm)	高さ(mm)	備 考
天神	1	原1	76	残55	
童子	1	原2	残79	残105	
大夫	1	原3	98	53	
人物A	1	原4	残35	残79	
人物B	1				
泥面子 鶴	1	原5	径36	30	
泥面子 龍王	1	原6	径78	25	
宝珠	1	原7	66	51	
鞠	1	原8	径78	29	
判子	1	原9	45	21	ヘラ/「中石」か
三ッ竈	1	原10	残120	85	奥行94mm
牛	1				
灯籠	1				
容器	1				
不明	2				刻印/「城戸」か(刻1)
合 計	16				

付表2 伏見人形製品・道具類分類表

類	名 称	種	個数	遺物番号	口径(mm)	器高(mm)	備 考
人形	天神	小型(2種)	2				すべて異なる種とした
人形	大黒天	小型(2種)	2				すべて異なる種とした
人形	恵比寿	小型	5				
人形	狐(眷族)	大型	1				
人形	狐(眷族)	中型A	6				
人形	狐(眷族)	中型B	6				
人形	狐(眷族)	小型A	1				
人形	狐(眷族)	小型B	1				
人形	狐(眷族)	その他(15種)	15				すべて異なる種とした
人形	台	大型右向	2				
人形	台	中型右向	8				
人形	台	中型左向	5				
人形	台	その他(13種)	13				すべて異なる種とした
人形	狛犬	中型(3種)	3				すべて異なる種とした
人形	鳥居	中型	24				
人形	蔵	中型	1				
人形	俵	小型(4種)	4				すべて異なる種とした
人形	童子	小型	1				
人形	おぼこ	中型	1				
人形	人物	不明(10種)	10				すべて異なる種とした
人形	ネズミ	小型	1				
人形	牛	小型(4種)	4				すべて異なる種とした
人形	馬	中型	1				
人形	飾馬	中型	1				
人形	犬	小型	1				
人形	猪	中型	1				
人形	鳩	小型A	4				
人形	鳩	小型B	1				
人形	鳩	小型C	1				
人形	鳩笛	小型	6				

類	名 称	種	個数	遺物番号	口径(mm)	器高(mm)	備 考
人形	鯛	中型(2種)	2				すべて異なる種とした
人形	足	(9種)	9				すべて異なる種とした
人形	桃	中型	1				
人形	火吹き竹	小型	1				
人形	太鼓橋		1				
人形	岩	小型	1				
人形	巾着	中型(2種)	2				すべて異なる種とした
人形	土鈴	小型	1				
人形	法具	小型	1				
人形	宝珠?	小型	1				
人形	小判	小型	1				
人形	樽	小型	1				
人形	顔	福助	1				
人形	顔	ひょっとこ	1				
人形	顔	お多福	2				
人形	顔	猿	1				
人形	顔	獅子	1				
人形	顔	狛犬	1				
人形	顔	布袋 大	1				
人形	顔	布袋 中	1				
人形	顔	布袋 小	1				
人形	顔	その他(9種)	9				すべて異なる種とした
人形	灯籠		1				
人形	泥面子	家紋(16種)	16				すべて異なる種とした
人形	泥面子	十二支 酉	1				
人形	泥面子	十二支 卯	1				
人形	泥面子	その他(13種)	13				すべて異なる種とした
人形	三っ竈	中型	1				
人形	お釜フタ	大	1				
人形	お釜フタ	中	1				
人形	お釜フタ	小A	1				
人形	お釜フタ	小B	1				
人形	お釜フタ	小C	3				
人形	お釜フタ	小 施釉	1				
人形	お釜	大	1				
人形	お釜	中	1				
人形	お釜	小	1				
人形	鍋フタ	小	2				
人形	フタ	中 施釉	4				
人形	フタ	小 施釉	1				
人形	小皿	小	1				
人形	土瓶	施釉	1				
人形	不明		9				種数には入れていない
	小 計	162種	235				
実用品	柚子でんぼ	大型(4種)	4				すべて異なる種とした
実用品	柚子でんぼ	中型A	1				
実用品	柚子でんぼ	中型B	2				
実用品	柚子でんぼ	小型	2				
実用品	柚子でんぼ	中型 上部	1				
実用品	でんぼ	中型 下部	1				
実用品	ごま炒り		8				
実用品	つぼつぼ		1				
	小 計	11種	20				



類	名 称	種	個数	遺物番号	口径(mm)	器高(mm)	備 考
容器	フタ	小	1	製 1	41	25	
容器	フタ	中	1	製 2	45	18	
容器	フタ	大	1	製 3	70	17	
容器	つぼつぼ形		3	製 4	31	23	体部最大径50mm
容器	皿	小	1	製 5	66	23	
容器	皿	中A	1	製 6	76	17	
容器	皿	中B	1	製 7	79	23	
容器	皿	A	1				
容器	皿	B	1				
容器	皿	C	1				
容器	皿	D	1				
容器	椀	小A	1	製 8	59	32	
容器	椀	小B	1	製 9	59	35	
容器	椀	中A	1	製10	70	24	
容器	椀	中B	1	製11	76	27	
容器	椀	大A	1	製12	90	35	
容器	椀	大B	3	製13	90	43	
容器	椀か	破片	15				種数には入れていない
容器	筒形	A	1	製14	38	26	
容器	筒形	B	9	製15	43	29	
容器	筒形	C	1	製16	48	23	
容器か	鐳付き筒形	小A	2	製17	42	21	
容器か	鐳付き筒形	小B	2				
容器か	鐳付き筒形	中A	1				
容器か	鐳付き筒形	中B	1				
容器か	鐳付き筒形	中C	1				
容器か	鐳付き筒形	中D	1				
容器か	鐳付き筒形	大A	7	製18	64	34	
容器か	鐳付き筒形	大B	1	製19	76	30	
容器か	高台付き筒形		2	製20	66	44	
容器か	釜形	小	1				
容器か	釜形	中A	2				
容器か	釜形	中B	2	製21	56	24	
容器か	鍋形	浅いA	1	製22	41	14	
容器か	鍋形	浅いB	1	製23	49	16	
容器か	鍋形	浅いC	1	製24	61	18	
容器か	鍋形	浅いD	1	製25	79	20	
容器か	鍋形	中 深いA	2	製26	33	29	
容器か	鍋形	中 深いB	1				
容器か	杯形 施釉		1				
	小 計	39種	78				
道具類	壺形		1	製27	39	89	播り道具
道具類	椀形		1	製28	106	47	胡粉入れ
	小 計	2種	2				
不明	破片		359				
	総 計	214種	694				

付表3 伏見人形土型(雌型)分類表

種の細分にはA、B・・・を付した。型幅は横の最大内径、型高は高さの内径、残は残存値。備考の「ヘラ」は外側のヘラ描き、「墨書」は外側の墨書を示し、点数は1点の場合は省略する。

類	名称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備考
1	天神	大型 表A	3	型1	残135	残202	ヘラ3点/「綿治」(型1)、「綿」、「○」
1	天神	大型 表B	1				
1	天神	大型 裏A	1				
1	天神	大型 裏B	1				
1	天神	中型 表	3	型2	102	136	ヘラ3点/「今」2点(型2)、「ワタ治」
1	天神	中型 裏	1				
1	天神	笏持ち 小型 表	1	型3	63	74	
1	天神	梅紋入り 小型 表	6	型4	54	69	ヘラ6点/「木治」6点(型4)
1	天神	立梅持ち 小型 表	3	型5	41	83	ヘラ3点/「木治」3点
1	天神	立梅持ち 小型 裏	2	型8	42	83	ヘラ2点/「木治」2点(型8)
1	天神	台座文違入 小型 表	2	型6	63	84	ヘラ/「大」
1	天神	頭縦筋あり 小型 裏	2				
1	天神	小型 裏A	12	型9	51	65	ヘラ11点/「木治」10点、「二十戌三月ホカ」(ヘラ8)
1	天神	小型 裏B	1				
1	天神	座り 小型 裏A	1	型10	59	4	墨書/不明。刻印/「城戸」か
1	天神	座り 小型 裏B	1	型11	残79	50	刻印/不明
1	天神	極小 表	1				
1	天神	極小 裏	1	型12	40	47	
	小計	18種	43				
1	大黒天	逆さ立ち 大型 表	1	型13	143	残170	
1	大黒天	大型 表	2				
1	大黒天	大型 裏	1				
1	大黒天	俵寄り 中型 表	3	型15	113	94	ヘラ/「ワタ治」
1	大黒天	俵寄り 中型 裏	11	型14	114	95	ヘラ7点/「ワタ治」(型14)、「治」、不明5点
1	大黒天	俵乗り 中型 表	4	型16	67	102	
1	大黒天	俵乗り 中型 裏A	3	型17	56	81	ヘラ/「全カ」(型17)
1	大黒天	俵乗り 中型 裏B	1	型18	56	106	
1	大黒天	俵乗り 小型 表A	3	型19	44	65	
1	大黒天	俵乗り 小型 表B	1				
1	大黒天	俵乗り 小型 裏A	2	型20	45	65	
1	大黒天	俵乗り 小型 裏B	2				
1	大黒天	俵乗り 小型 裏C	1				刻印/「城戸」か
1	大黒天	俵乗り 極小 表	1	型21	31	44	
1	大黒天	俵乗り 極小 裏	1	型22	32	49	
	小計	15種	37				
1	恵比寿	鯛持ち 大型 表	1	型23	109	1161	
1	恵比寿	紋入り 大型 表	1	型24	残116	残120	
1	恵比寿	大型 表A	1				
1	恵比寿	大型 表B	1				
1	恵比寿	大型 表C	1				
1	恵比寿	大型 裏A	3	型25	残118	残137	
1	恵比寿	大型 裏B	1				ヘラ/「ワタ□」
1	恵比寿	大型 裏C	1				
1	恵比寿	中型 表A	1	型26	63	88	ヘラ/「全カ」
1	恵比寿	中型 表B	1				
1	恵比寿	中型 表C	1				
1	恵比寿	中型 表D	1				
1	恵比寿	中型 裏	2	型29	65	89	ヘラ2点/「全カ」1点(型29)、「全」1点。刻印2点/「城戸」か2点
1	恵比寿	鯛乗り 小型 表	1	型27	69	73	ヘラ/「木治」

類	名称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備考
1	恵比寿	鯛乗り 小型 裏	1	型28	60	75	ヘラ/「木治」
1	恵比寿	小型 表	3	型30	50	69	ヘラ/「大り」(型30)
1	恵比寿	岩乗り 小型 表	1	型31	53	90	
1	恵比寿	小型 裏A	1	型7	46	72	ヘラ/「△」
1	恵比寿	小型 裏B	3	型32	51	68	ヘラ2点/「大り」2点
1	恵比寿	小型 裏C	1				
1	恵比寿	極小 表	1	型33	25	45	
	小計	21種	28				
1	布袋	中型 表A	2				
1	布袋	中型 表B	1	型34	残108	102	ヘラ/「ワロシ」
1	布袋	中型 表C	1	型35	残62	残99	
1	布袋	中型 表D	1				
1	布袋	中型 裏	7				
1	布袋	小型 表A	1	型36	34	49	ヘラ/「午祭木治」
1	布袋	小型 表B	1	型37	28	50	ヘラ/「△」
1	布袋	小型 表C	1	型38	24	43	
	小計	8種	15				
1	福祿寿	中型 表	1	型39	34	79	ヘラ/「木治」
1	福祿寿	小型 表	1	型40	30	43	
	小計	2種	2				
1	狐(眷族)	宝珠持ち 大型 表	1	型41	178	160	ヘラ/「今」
1	狐(眷族)	大型 胴	1				ヘラ/「今」
1	狐(眷族)	頭左 中型A	1	型42	40	99	
1	狐(眷族)	頭左 中型B	1				
1	狐(眷族)	頭右 中型A	1	型43	48	残126	
1	狐(眷族)	頭右 中型B	1	型44	40	71	
1	狐(眷族)	中型 裏A	1	型45	31	74	
1	狐(眷族)	中型 裏B	1				
1	狐(眷族)	頭右 小型	1				
1	狐(眷族)	頭左 小型	1	型46	25	46	
	小計	10種	10				
1	狛犬	狛 表A	1	型47	51	82	ヘラ/「#」
1	狛犬	狛 表B	1				
1	狛犬	狛 半身	1	型48	残57	残69	
1	狛犬	獅子 裏	2	型49	39	68	ヘラ/「木治」
	小計	4種	5				
1	鳥居	大型	1	型50	128	131	
1	鳥居	小型	1				
	小計	2種	2				
1	蔵	大型 表A	3	型51	78	120	ヘラ2点/「ワタシ」(型51)、 「安政四年□□調之」
1	蔵	大型 表B	1	型52	45	48	
1	蔵	大型 裏A	1				ヘラ/「安政四年八月調之」(ヘラ2)
1	蔵	大型 裏B	1				ヘラ/「綿」。刻印/「城」か
1	蔵	大型 裏C	1				
1	蔵	小型 表	1	型53	24	45	
	小計	6種	8				
1	俵		12				分類が困難なため種数には入れていない
	小計		12				
1	舟	大型	1	型54	90	250	ヘラ/「綿治」
1	舟	中型 下部A	1	型55	47	117	ヘラ/「大」
1	舟	中型 下部B	1				
1	舟	中型 下部C	1				
1	舟	童子乗り片側 中型	1	型56	116	89	

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
1	舟	童子乗り上部 中型	1	型57	46	85	
1	舟	小型 上部	1	型58	21	47	
1	舟	小型 下部	1	型59	21	47	
1	舟	小型 片側	1	型60	残50	残34	
	小 計	9種	9				
1	お多福	大型 表	1	型62	73	残69	
	小 計	1種	1				
1	福助	大型 表A	1	型61	残82	残102	ヘラ/「本」
1	福助	大型 表B	1	型63	残46	残63	
1	福助	大型 表C	1				
1	福助	大型 表D	1				
1	福助	中型 裏A	1				ヘラ/「大り」
1	福助	中型 裏B	1				
1	福助	中型 裏C	1				
1	福助	中型 裏D	1				
1	福助	小型 裏	1	型64	44	43	
	小 計	9種	9				
1	友引人形	表	3	型65	121	70	
1	友引人形	裏	3	型66	残99	65	
	小 計	2種	6				
1	達磨	小型 裏A	1				ヘラ2点/「大り」、「突」(内側)
1	達磨	小型 裏B	2				ヘラ/「大り」
	小 計	2種	3				
	合 計	109種	190				
2	饅頭喰い	大型 表	1	型67	77	残92	
2	饅頭喰い	小型 裏	1	型68	49	71	
	小 計	2種	2				
2	西行法師	中型 表A	1	型69	55	71	
2	西行法師	中型 表B	1	型70	42	53	
2	西行法師	中型 表C	1	型73	残50	残59	ヘラ/「本」
2	西行法師	中型 裏A	1	型71	43	61	ヘラ/「木治」
2	西行法師	中型 裏B	1	型72	42	58	
	小 計	5種	5				
	合 計	7種	7				
3	熊金	足 中型	2				
3	熊金	足と熊 中型	1	型74	残140	残110	
3	熊金	足と熊の足 中型	1				
3	熊金	熊 小型	1	型75	残68	残62	
	小 計	4種	5				
3	武者	小型 裏	1	型76	28	47	
	小 計	1種	1				
3	馬曳三吉	大型 表	1	型77	残120	残188	
	小 計	1種	1				
	合 計	6種	7				
4	童子	童子と鯛 大型 表A	1	型78	残156	残146	
4	童子	童子と鯛 大型 表B	3				ヘラ3点/「明治十年〇七月」(ヘラ4)、「ワ」、不明
4	童子	童子と鯛 大型 表C	2				
4	童子	童子と鯛 中型 表	3	型79	残118	残104	
4	童子	童子と鯛 中型 裏	8	型80	88	108	ヘラ3点/「明治六年西七月吉日新調之」(ヘラ3)、不明2点
4	童子	童子と鯛 小型 表A	1	型81	88	73	ヘラ/「明〇七月〇木」
4	童子	童子と鯛 小型 表B	1				
4	童子	童子と鯛 小型 表C	1				

類	名称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備考
4	童子	童子と鯛 小型 表D	1				
4	童子	童子と鯛 小型 表E	1				
4	童子	童子と鯛 小型 表F	1				
4	童子	童子と鯛 小型 裏A	1	型82	84	82	
4	童子	童子と鯛 小型 裏B	1	型83	88	82	
4	童子	童子と槌 中型 裏	4	型84	86	104	
4	童子	童子と樽 中型 表	2	型85	97	111	
4	童子	童子と団扇 表	1	型86	76	77	
4	童子	童子と猿 小型 表	1	型87	46	80	ヘラ/「木治」
4	童子	童子と玉 小型 表	1	型88	62	59	ヘラ/「 <del>女</del> 」
4	童子	童子と玉 小型 裏	1				
4	童子	童子と俵 小型 表A	1				
4	童子	童子と俵 小型 表B	1				
4	童子	童子と俵 小型 表C	1				
4	童子	童子と俵 小型 表D	1				
4	童子	童子と俵 中型 裏	1	型89	47	92	
4	童子	童子と俵 小型 裏	1	型91	24	46	
4	童子	童子と瓢箪 小型 表	1	型90	59	73	
4	童子	童子と神楽鈴 小型 表	1	型92	46	残49	
4	童子	童子子守 小型 裏A	1	型93	29	54	
4	童子	童子子守 小型 裏B	1				
4	童子	童子と亀 大型 表	1				
4	童子	童子の金魚掬い 中 表	1				
4	童子	童子と何か 大型 表	1				
4	童子	童子と何か 大型 裏	1				
4	童子	童子と何か 中型 表	1				
4	童子	童子と何か 中型 裏A	1				
4	童子	童子と何か 中型 裏	1				
4	童子	童子と何か 小型 裏	1				ヘラ/「木治」
4	童子	立童子 中型 表A	1	型97	48	91	
4	童子	立童子 中型 表B	2	型94	58	105	
4	童子	立童子 中型 裏A	5	型95	57	104	
4	童子	立童子 中型 裏B	1	型96	50	98	
4	童子	立童子 中型 裏C	1				
4	童子	立童子 中型 裏D	1				
4	童子	立童子 小型 裏	1				
4	童子	座り童子 中型 表A	3	型99	63	75	
4	童子	座り童子 中型 表B	1	型103	48	61	
4	童子	座り童子 中型 裏A	1	型98	87	75	ヘラ/「井宇」
4	童子	座り童子 中型 裏B	1	型100	61	72	ヘラ/「大」
4	童子	座り童子 中型 裏C	1	型102	残45	残60	ヘラ/「大リ」
4	童子	座り童子 中型 裏D	3	型106	59	74	
4	童子	座り童子 中型 裏E	1				
4	童子	座り童子 小型 表	1	型104	34	44	
4	童子	座り童子 小型 裏	1	型105	33	43	
4	童子	中型 裏	1	型101	61	73	
4	童子	小型 裏	1	型107	25	45	
4	童子	不明	7				種数には入れていない。刻印/不明
	小計	55種	87				
4	女物	おぼこ 特大 裏	1	型108	170	327	
4	女物	おぼこ 大型 表	4	型109	100	227	
4	女物	おぼこ 大型 裏A	3				
4	女物	おぼこ 大型 裏B	2	型110	100	164	
4	女物	おぼこ 大型 裏C	1				

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
4	女物	おぼこ 中型 表	2	型111	65	111	
4	女物	おぼこ 中型 裏A	3	型112	63	122	
4	女物	おぼこ 中型 裏B	3				
4	女物	おぼこ 中型 裏C	2	型113	56	81	
4	女物	おぼこ 小型 裏A	1	型114	28	44	
4	女物	おぼこ 小型 裏B	1				
4	女物	おぼこ 小型 裏C	1				
4	女物	団扇持ち 中型 表	1	型115	89	181	
4	女物	団扇持ち 中型 裏	4	型116	89	残180	
4	女物	芭蕉扇持ち 中型 表	1				
4	女物	三味線弾き 中型 表	1	型117	残49	残43	
4	女物	笠持ち 中型 表	1	型118	53	107	
4	女物	棒持ち 中型 表	1				
4	女物	琵琶弾き 小型 表	1	型119	47	50	
4	女物	お高祖頭巾 小型 表	1	型120	23	51	
4	女物	お高祖頭巾 小型 裏A	1	型121	25	51	
4	女物	お高祖頭巾 小型 裏B	1				
4	女物	大型 表A	1				ヘラ/「今」
4	女物	大型 表B	1				
4	女物	大型 表C	1				
4	女物	大型 表D	1				
4	女物	大型 裏A	1				
4	女物	大型 裏B	1				
4	女物	大型 裏C	1				
4	女物	中型 表	1	型122	64	59	ヘラ/「全」(型122)
4	女物	中型 裏A	1				
4	女物	中型 裏B	1				
4	女物	体部のみ 小型 表	1	型123	43	68	
4	女物	髷結び頭部 大型 表	1				
4	女物	頭部 大型 表A	1				
4	女物	頭部 大型 表B	1				
4	女物	頭部 大型 表C	1				
4	女物	頭部 大型 表D	1				
4	女物	頭部 大型 表E	1				
4	女物	頭部 中型 裏	1				
4	女物	頭部 小型 裏	1				
4	女物	不明	11				種数には入れていない
	小 計	41種	67				
4	力士	土俵入り 大型 表A	2	型124	残120	240	
4	力士	土俵入り 大型 表B	1	型125	残116	255	
4	力士	着物 大型 表A	2	型127	116	残70	
4	力士	着物 大型 表B	1				ヘラ/「今」
4	力士	着物 大型 裏	2	型126	168	残197	ヘラ/「今」「午歳」(型126)
4	力士	俵乗り 大型 裏	1				ヘラ/「明治十一年寅七月下旬綿治」(ヘラ5)
4	力士	大型 裏A	1				
4	力士	大型 裏B	1				
4	力士	土俵入り 中型 表A	3	型128	47	82	ヘラ/「#」
4	力士	土俵入り 中型 表B	1				
4	力士	土俵入り 中型 裏	2	型129	53	84	
4	力士	土俵入り 小型 表	2	型131	30	49	ヘラ/「△」(型131)
4	力士	着物 小型 裏	1	型130	47	59	
4	力士	着物 極小 裏	1	型132	34	43	
	小 計	14種	21				
4	男物	装束 中型 裏	1	型133	65	81	刻印/「城戸」か

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
4	男物	装束 中型 表	1	型134	50	63	刻印/「城戸」か
4	男物	獮師 小型 表	1	型135	22	51	鉄砲を持つ
4	男物	虚無僧 中型 表	6	型136	35	82	ヘラ6点/「木治」6点
4	男物	虚無僧 中型 裏	5	型137	32	81	ヘラ5点/「木治」5点
4	男物	茶坊主 小型 表	1	型138	35	39	
	小 計	6種	15				
4	人物不明	大型 表A	1				
4	人物不明	大型 表B	1				
4	人物不明	大型 裏	1				
4	人物不明	中型 表A	1				ヘラ/「大り」
4	人物不明	中型 表B	1				
4	人物不明	中型 裏A	1				ヘラ/「#ウ」
4	人物不明	中型 裏B	1				刻印/「城戸」か
4	人物不明	小型 表A	1	型139	40	46	
4	人物不明	小型 表B	1	型140	35	44	
4	人物不明	小型 表C	1	型141	29	45	
4	人物不明	小型 裏	1				
	小 計	11種	11				
	合 計	127種	201				
5	ネズミ	頭右 中型A	3	型142	91	45	
5	ネズミ	頭右 中型B	1	型143	84	42	
5	ネズミ	頭左 中型	2	型144	83	41	
5	ネズミ	俵乗り 中型	1	型145	残56	残61	ヘラ/「大り」
5	ネズミ	頭右 小型	1	型146	49	23	
	小 計	5種	8				
5	牛	童子乗り 中型裏	1	型147	157	132	
5	牛	俵牛 中型	1	型148	残161	96	
5	牛	寝牛頭左 中型A	2	型149	155	73	ヘラ2点/「今」2点
5	牛	寝牛頭左 中型B	1				
5	牛	寝牛頭右 中型	6	型150	143	残74	墨書/「キ」
5	牛	寝牛頭右 小型	1	型152	37	31	
5	牛	立牛頭左 小型	1	型151	80	41	ヘラ/「うし」
5	牛	立牛 小型	2				
5	牛	頭右 中型	1				
5	牛	小型	1				
5	牛	足 中型	12				分類が困難なため種数には入れていない
5	牛	頭部 中型A	1				
5	牛	頭部 中型B	1				
5	牛	頭部 中型C	1				
5	牛	頭部 小型	1				
	小 計	14種	33				
5	兎	頭左 大型	1	型153	155	112	ヘラ/「今井」
	小 計	1種	1				
5	蛇	裏 中型	1	型154	残60	残31	
	小 計	1種	1				
5	馬	鞍馬頭右 特大A	2	型155	239	254	
5	馬	鞍馬頭右 特大B	1				
5	馬	鞍馬頭左 特大	1				
5	馬	鞍馬頭右 中型	1				
5	馬	飾り馬頭右 中型	2				
5	馬	飾り馬頭左 中型	7	型157	122	141	
5	馬	童子乗り 中型A	1	型156	残82	113	
5	馬	童子乗り 中型B	1				
5	馬	童子乗り 中型C	1				

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
5	馬	童子乗り 小型	1	型162	残45	残53	
5	馬	神馬頭右 中型	1	型158	66	86	
5	馬	神馬頭左 中型A	1	型159	67	87	
5	馬	神馬頭右 中型B	4	型160	66	80	
5	馬	武者乗り 小型	1	型161	83	67	
5	馬	頭部 大型	1				
5	馬	頭部 中型	1				
5	馬	頭部 小型A	1				
5	馬	頭部 小型B	1				
5	馬	頭部 小型C	1				
5	馬	頭部 小型D	1				
5	馬	胴 大型A	1				ヘラ/「□二年七月下旬」
5	馬	胴 大型B	1				
5	馬	胴 大型C	1				
5	馬	胴 大型D	1				
5	馬	足 大型A	1				
5	馬	足 大型B	1				
5	馬	足 中型A	1				
5	馬	足 中型B	1				
5	馬	足 中型C	1				
5	馬	足 中型D	1				
5	馬	不明	5				種数には入れていない。ヘラ/不明
	小 計	30種	46				
5	猿	大型 表A	1	型163	143	215	
5	猿	大型 表B	2				ヘラ/「○」
5	猿	親子猿 中型 表	2	型165	残79	残154	
5	猿	中型 表	2	型166	91	96	
5	猿	礼者猿 中型 表	2	型164	70	123	ヘラ/「申年わ夕治」(型164)
5	猿	礼者猿 中型 裏	3	型167	72	118	ヘラ3点/「明治四申年ワ夕治」(型167)、「明五申九 □綿治」(ヘラ7)・内側に「綿治」、「明五申九十之」
5	猿	中型 裏A	4	型168	88	96	ヘラ/「ワタシ」(ヘラ10)
5	猿	中型 裏B	1				
5	猿	中型 裏C	1				
5	猿	両足揃え 小型 表	1	型169	53	78	
5	猿	片膝立て 小型 表	1				
5	猿	座り 小型 裏	1				
5	猿	片膝立て 小型 裏	1	型170	58	74	
5	猿	不明	6				
	小 計	13種	28				
5	ニワトリ	頭右 大型	1	型171	146	127	
5	ニワトリ	頭左 中型	1				
5	ニワトリ	頭左 小型	1	型172	32	残33	
	小 計	3種	3				
5	犬	立犬 大型 裏	1	型173	179	205	
5	犬	立犬 中型 表	1				ヘラ/「明治十八年吉日十之□」(ヘラ6)
5	犬	犬と鯛	2	型174	230	120	ヘラ2点/「井伊」(型174)、「寛政七年卯春」 (ヘラ1)
5	犬	座り 大型 表	1				
5	犬	座り 中型 表A	7	型175	105	120	
5	犬	座り 中型 表B	1				
5	犬	座り 中型 表C	1				
5	犬	座り 中型 表D	1				
5	犬	座り 中型 裏	5	型176	104	119	
5	犬	座り 小型 表	2	型179	60	68	



類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
5	犬	座り 小型 裏A	1	型178	72	75	
5	犬	座り 小型 裏B	1				ヘラ/「口字」か
5	犬	座り 足A	1				
5	犬	座り 足B	1				
5	犬	座り 足C	1				
5	犬	座り 足D	1				
5	犬	立犬頭右 中型A	3	型177	112	79	ヘラ2点/「萬吉」か2点 (ヘラ13)
5	犬	立犬頭右 中型B	2				
5	犬	立犬頭右 小型	3	型181	78	50	
5	犬	立犬頭左 小型	3	型180	79	48	
5	犬	中型 裏	1				
5	犬	小型 表	1				
5	犬	頭部	9				分類が困難なため種数には入れていない
5	犬	胴	11				分類が困難なため種数には入れていない
5	犬	尾A	1				
5	犬	尾B	1				
5	犬	尾C	1				
5	犬	足	1				
5	犬	犬と何か	1				
	小 計	27種	66				
5	猫	大型 表	1	型182	202	192	
5	猫	中型 表A	1	型183	105	114	
5	猫	中型 表B	1	型184	98	104	
5	猫	中型 裏	1				
5	猫	小型 表A	1	型185	66	72	
5	猫	小型 表B	1	型187	52	77	
5	猫	小型 表C	1				
5	猫	小型 裏	2	型186	66	71	ヘラ2点/「口治」、「治」
5	猫	極小 表	2	型188	20	45	
5	猫	極小 裏	4	型189	19	46	
	小 計	10種	15				
5	鳩	頭右 大型	6				
5	鳩	頭左 大型A	1	型191	残134	114	ヘラ/「今」
5	鳩	頭左 大型B	1				
5	鳩	頭左 大型C	1				
5	鳩	頭左 大型D	1				
5	鳩	頭左 中型	1	型190	156	100	
5	鳩	頭右 中型A	2	型192	103	85	
5	鳩	頭右 中型B	1				
5	鳩	鳩笛 小型A	1	型193	63	34	
5	鳩	鳩笛 小型B	1	型194	85	25	ヘラ/「梟(けり)」か「兎」
5	鳩	頭左 小型A	1	型195	58	38	
5	鳩	頭左 小型B	1	型196	50	41	
	小 計	12種	18				
5	雀	福良雀 中型 上部	1	型197	80	62	
5	雀	福良雀 中型 下部	1	型198	83	65	
5	雀	頭右 小型	1	型199	78	35	
5	雀	頭左 小型	1	型200	78	35	
	小 計	4種	4				
5	鯛	大型A	1				
5	鯛	大型B	1				
5	鯛	頭右 中型	1	型201	97	53	
5	鯛	頭左 中型	1	型202	85	58	
5	鯛	頭右 中型	1	型203	80	49	墨書/「今」

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
5	鯛	頭左 中型	1				
5	鯛	頭右 小型	1				
5	鯛	頭左 小型	1	型204	45	27	
5	鯛	不明	1				
	小 計	9種	9				
5	その他動物	蛤 竜宮城? 大型	1	型205	100	88	
5	その他動物	貝 15弧 小型	2	型206	25	24	
5	その他動物	貝 ヒトデ形 小型	1	型207	27	28	
5	その他動物	不明	1				
	小 計	4種	5				
5	植物	桃 中型	2	型208	131	72	
5	植物	桃 小型	1				
5	植物	筍 小型	1	型209	21	44	
5	植物	瓢箪 小型	1	型210	28	64	
	小 計	4種	5				
	合 計	137種	242				
6	遊具など	神輿 中型	1	型211	残52	残70	
6	遊具など	神輿 小型	1	型212	32	42	
6	遊具など	小判 中型 表	1	型213	52	70	
6	遊具など	小判 中型 裏	1	型214	44	68	墨書/「今」。刻印/「城戸」か
6	遊具など	神楽太鼓 中型A	1	型215	67	158	
6	遊具など	神楽太鼓 中型B	1				
6	遊具など	神楽太鼓 中型C	1				
6	遊具など	神楽太鼓 中型 取手	1				
6	遊具など	神楽鈴 中型	1	型216	45	118	
6	遊具など	ヒトデか 中型	2	型217	60	57	
6	遊具など	太鼓橋 中型A	2	型218	35	13	
6	遊具など	太鼓橋 中型B	2	型219	67	47	
6	遊具など	梵鐘 中型	1	型220	61	111	
6	遊具など	巾着 中型A	1	型221	73	76	
6	遊具など	巾着 中型B	1				
6	遊具など	火吹竹 特大	1	型222	135	323	ヘラ/「長寿」か
6	遊具など	火吹竹 中型	1				
6	遊具など	火吹竹 小型	1	型223	30	72	
	小 計	18種	21				
6	顔	大黒天 大型	1	型224	124	113	
6	顔	大夫 中型	1	型225	65	64	
6	顔	力士 中型	2	型226	68	54	
6	顔	童子 中型	3	型227	53	57	
6	顔	大黒天 中型	5	型228	57	50	
6	顔	武者 中型	3	型229	57	62	
6	顔	武者 小型	1	型232	25	26	
6	顔	男 中型	2	型230	47	53	
6	顔	太夫押込式 小型	1	型231	46	50	人形の頭部
6	顔	鬚男 小型	1	型233	24	28	
	小 計	10種	20				
6	灯籠	笠 大型A	1	型234	210	195	
6	灯籠	笠 大型B	1				
6	灯籠	笠 中型A	5	型235	125	146	
6	灯籠	笠 中型B	1				
	小 計	4種	8				
6	泥面子	大型 永楽通寶	1	型236	径55		
6	泥面子	大型 四ツ目紋	1	型237	径45		ヘラ/「大」
6	泥面子	中型 五三の桐	3	型238	径33		

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
6	泥面子	小型 紋	4	型239	径24		ヘラ4点/「大」4点
6	泥面子	大型 紋	1	型270	径44		「丸にいの字」か
6	泥面子	大型 十六菊花紋	1	型271	径43		
6	泥面子	大型 紋	1	型272	径44		
6	泥面子	大型 紋	7	型273	径40		
6	泥面子	大型 丸に十字紋	2	型274	径39		
6	泥面子	中型 紋	1	型275	径33		「丸にいの字」か
6	泥面子	中型 十六菊花紋	2	型276	径31		
6	泥面子	中型	2	型277	径38		ヘラ2点/「大」2点
6	泥面子	中型	21	型278	径30		ヘラ11点/「大」11点
6	泥面子	中型 紋	1	型279	径33		「桐」か
6	泥面子	中型 丸に十字紋	30	型280	径31		ヘラ14点/「大」14点
6	泥面子	中型 紋	1	型281	径31		「丸にいの字」か
6	泥面子	中型 紋	16	型282	径30		ヘラ5点/「大」5点
6	泥面子	中型 木瓜紋	1	型283	径31		
6	泥面子	中型	2	型284	径30		
6	泥面子	中型	1	型285	径31		
6	泥面子	中型	1	型286	径32		ヘラ/「大」
6	泥面子	小型	1	型287	径26		扇か。ヘラ/「大」
6	泥面子	小型 紋	1	型288	径29		「重ね扇に抱き柏」か
6	泥面子	小型 分銅紋	2	型289	径25		ヘラ2点/「大」2点
6	泥面子	小型	27	型290	径28		ヘラ16点/「大」16点
6	泥面子	小型	2	型291	径26		笠か。ヘラ/「大」
6	泥面子	小型 鶴紋	1	型292	径28		
6	泥面子	大型 重圍	1	型293	径53		
6	泥面子	大型 車	2	型294	径57		
6	泥面子	大型 紋	4	型295	径40		
6	泥面子	大型	3	型296	径40		
6	泥面子	大型 車か	4	型297	径41		
6	泥面子	大型	3	型298	長径43	短径37	
6	泥面子	大型 花卉	5	型299	径40		
6	泥面子	中型 ユの字	1	型300	径30		
6	泥面子	中型 小の字	1	型301	径32		ヘラ/「大」
6	泥面子	中型 十二支「辰」	1	型302	径35		
6	泥面子	中型 稲の字	1	型303	不明		中型であろう。紋か
6	泥面子	中型	2	型304	径38		魚か。ヘラ2点/「大」2点
6	泥面子	中型	1	型305	径31		
6	泥面子	中型 花卉	4	型306	径30		
6	泥面子	中型 拍の字	1	型307	径33		ヘラ/「大」
6	泥面子	中型 十二支「申」	1	型308	径33		
6	泥面子	中型 十二支「酉」	1	型309	径33		
6	泥面子	中型	1	型310	長径33	短径24	
6	泥面子	小型	3	型311	径29		
6	泥面子	小型 玉の字	1	型312	径28		
6	泥面子	小型 小の字	2	型313	径25		ヘラ2点/「大」2点
6	泥面子	小型	1		径25		型304と同紋、魚か。ヘラ/「大」
	小 計	49種	178				
6	種類不明	六角形	3	型240	80	88	ヘラ/「大」
6	種類不明	蓋か	1	型241	82	残70	ヘラ/「大」
6	種類不明	菊 蓋か	1	型242	69	残60	
6	種類不明	でんぼ 蓋か	1	型243	52	54	ヘラ/「#」
6	種類不明	でんぼ 蓋か	1				
6	種類不明	でんぼ 蓋か	1				
6	種類不明	でんぼ 蓋か	3	型244	54	55	ヘラ/「#」(型244)

類	名 称	種	個数	遺物番号	型幅(mm)	型高(mm)	備 考
6	種類不明	宝珠か	1				刻印/「鶉山」(刻2)が2個押される
	小 計	8種	12				
	合 計	89種	239				
7	でんぼ	柚子でんぼ 蓋	3	型252	36	36	
7	でんぼ	柚子でんぼ 蓋 小型	1				
7	でんぼ	柚子でんぼ 上部A	3	型245	87	90	ヘラ/記号(ヘラ12)
7	でんぼ	柚子でんぼ 上部B	1				
7	でんぼ	柚子でんぼ 下部	1				ヘラ/記号(ヘラ11)
7	でんぼ	柚子でんぼ 部位不明A	1				
7	でんぼ	柚子でんぼ 部位不明B	1				
7	でんぼ	柚子でんぼ 部位不明C	1				
7	でんぼ	でんぼ 上部 深いA	1	型246	78	76	ヘラ/「井」に中点
7	でんぼ	でんぼ 上部 深いB	1				
7	でんぼ	でんぼ 上部 浅いA	3	型247	77	82	
7	でんぼ	でんぼ 上部 浅いB	1	型248	82	82	ヘラ/「△」
7	でんぼ	菊でんぼ 蓋 大型	1	型249	71	70	
7	でんぼ	菊でんぼ 蓋 中型	2	型250	62	62	
7	でんぼ	菊でんぼ 蓋 小型	3	型251	44	44	
7	でんぼ	菊でんぼ 蓋 極小	1				
	小 計	16種	25				
7	胡麻煎り	表	25	型253	94	263	ヘラ8点/「大」8点
7	胡麻煎り	裏	17	型254	102	267	ヘラ2点/「大」2点
7	胡麻煎り	取手	22				取手は表か裏のいずれかである
	小 計	2種	64				
7	風鈴か	花卉文様A	3				ヘラ/「戌」か
7	風鈴か	花卉文様B	1	型255	63	65	
7	風鈴か	輪文様	29	型256	70	70	ヘラ/「×」(型256)
7	呼び鈴か		1	型257	51	55	
	小 計	4種	34				
7	五徳	逆さ四脚 大	1				
7	五徳	逆さ四脚 中	1	型258	154	140	
	小 計	2種	2				
7	容器	大皿 内型	1	型259	115	115	
7	容器	大皿	1	型260	92	92	
7	容器	中皿A	1	型261	68	67	
7	容器	中皿B	4	型264	54	55	ヘラ/「#」(型264)
7	容器	平底 下部A	1	型262	58	55	
7	容器	平底 下部B	1	型263	50	50	墨書/不明
7	容器	平底 下部C	1				
7	容器	平底 下部D	1				
7	容器	平底 下部E	1				
7	容器	平底 下部F	1				
7	容器	平底 下部G	1				
7	容器	釜蓋 花と三角文様	1	型265	43	43	
7	容器	釜蓋	1	型266	46	44	
7	容器	小皿	8	型267	45	45	
7	容器	底	1	型268	42	42	
7	容器	角皿	1	型269	70	55	
	小 計	16種	26				
	合 計	40種	151				
不明	破片		197				種数には入れていない。ヘラ6点/「今」(ヘラ9)、「宗」、不明4。墨書/不明
	総 計	515種	1234				

# 版 图



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ほうしょうじあと							
書名	法性寺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2010-19							
編著者名	布川豊治							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2011年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうしょうじあと 法性寺跡	きょうとしひがしやまく 京都市東山区 ほんまちにじゅっちょうめ 本町二十丁目 ほかちない 他地内	26100	548	34度 58分 23秒	135度 46分 14秒	2011年1月 24日～2011 年3月29日	326m <sup>2</sup>	道路拡幅 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
法性寺跡	寺院跡	古墳時代	溝	土師器		この地域で初めて 伏見人形窯跡を検 出し、人形関連遺 物が多量に出土し た。		
		飛鳥時代 ～平安時代		須恵器、緑釉単彩陶器、 土師器				
		室町時代	建物、柱穴	土師器、瓦器				
		江戸時代	溝	土師器、銭貨				
		幕末 ～明治時代	窯、土坑	伏見人形原型・土型・ 製品・道具類				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-19

## 法 性 寺 跡

発行日 2011年6月30日

編 集  
発 行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1  
〒 602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地  
〒 604-0093 TEL 075-256-0961